

富山県大山町

東黒牧上野遺跡 G地区

発掘調査概要

2000年3月

大山町教育委員会

序

遺跡は歴史上の各時代に営まれた人間の生活に伴う、文化的遺産の痕跡です。歴史的な文化遺産のなかで、地中に残った建物跡や墓、諸施設をとじこめているものといえます。言い換えれば、私たちの先祖・先人たちの歴史的活動の成果であり、生活の記録です。また、郷土の歴史を知る上でかけがえのない貴重な資料でもあります。

豊かな自然に恵まれた大山町は、古くより先人が生活した痕跡としての遺跡が数多く存在しています。里山の台地に所在する東黒牧上野遺跡もその一つです。これまでの調査で東黒牧上野遺跡は、A地区からH地区に分けられ旧石器時代、縄文時代、古墳時代、平安時代の複合遺跡であり、約二万年前から一千年前までの人々の生活の跡がこされていることが明らかになっています。

今回、調査を行った東黒牧上野遺跡G地区は、富山国際大学の敷地内にあり、昭和62年度の試掘調査では古墳時代の堅穴住居跡が発見されています。このため平成11年度の富山国際大学地域学部増設工事にあたり、堅穴住居跡の保護措置を検討した結果、大講義室の設計を工夫することで堅穴住居跡の保存をはかることが出来ました。本調査では、住居跡等の新たな発見はなく記録保存を行いました。

このように遺跡を保存し後世に伝えることは、現代に生きる私たちの義務でもあります。多くの人々が遺跡への関心を高め理解を深めていくことに本書が役立てば幸いです。

なお、今回の調査にあたりご指導を賜りました富山県教育委員会及び富山県埋蔵文化財センターをはじめ、調査にご協力いただきました地元の方々や関係各位に心からお礼申し上げます。

平成12年3月

大山町教育委員会
教育長 高木 義則

例言

1. 本書は、学校法人 富山国際学園 富山国際大学地域学部増設建設工事（図書館・大講義室・講義研究棟4号館等の建設）に伴う、富山県上新川郡大山町東黒牧上野遺跡G地区の発掘調査概要である。

2. 調査は、学校法人 富山国際学園の委託を受け、大山町教育委員会が平成10(1998)年度・11(1999)年度に実施した。

3. 調査遺跡名は、東黒牧上野遺跡G地区で、富山県遺跡台帳番号は302016で、略号はOHUG-98・OHUG-99である。

4. 調査期間および調査面積は、以下の通りである。

本調査 第2次調査 平成10(1998)年7月6日(月)から8月4日(火)までの実動20日間・調査面積500m²

本調査 第3次調査 平成11(1999)年4月26日(月)から6月1日(火)までの実動26日間・調査面積460m²

5. 調査事務局は大山町教育委員会におき、第2次調査では、係長田近直美・主事野中由希子が事務を担当し、教育課長中村昭徳が総括した。第3次調査では、係長柄井章好・主事補小松博幸が事務を担当し、教育課長松本茂夫が総括した。また、調査にあたっては富山県埋蔵文化財センターから調査員の派遣・指導を得た。

6. 調査担当者は、以下の通りである。

第2次調査 平成10(1998)年 大山町教育委員会主事（学芸員）野中由希子

第3次調査 平成11(1999)年 大山町教育委員会主事補（学芸員）小松博幸

調査指導 第2次・第3次調査 富山県埋蔵文化財センター 調査課 橋本正春

7. 発掘調査・資料整理・本書の作成にあたり、下記の方々から有益な指導・援助をいただいた。また、富山県教育委員会文化財課・富山県埋蔵文化財センターから有益なご教示を得た。記して深甚なる謝意を表したい。

岸本雅敏・井口義男・上野幸夫・岡本淳一郎・久々忠義・高慶孝・斎藤隆・島田修一・神保孝造・高橋真実・麻柄一志（順不同・敬称略）、また、富山国際大学地域学部校舎の設計変更では株式会社三四五建築研究所の協力を、発掘作業にあたっては大山町シルバー人材センターの協力を得た。

8. 本書の執筆はI、II、III、IVは小松が行い、V、VIは橋本正春と戸兼暢宏が共同で行い、小松が編集した。なお、遺物の実測およびトレースは富山大学考古学専攻の佐々木亮二・砂田普司・渡辺樹・塙田直哉（順不同）が担当した。

9. 土層の色調は小出正忠・竹原秀雄編著1967『新版標準土色帖』に準拠している。

10. 遺物はすべて一連番号とし、図・写真中でも同一とした。

11. グリッド測量および航空写真撮影測量は、アジア航測株式会社が実施した。

発掘調査参加者一覧

調査補助員 戸兼暢宏（富山大学大学院考古学専攻）、発掘作業員 井出靖夫 塙田直哉（以上 富山大学考古学専攻）相川鉄雄 阿部陽子 上田真人 大野良信 岡崎節子 植谷幸子 河上日出春 清田秀平 久々江里枝 筒岡 雪柴田繁 新谷セツ子 新村正和 水門志津子 藤井祐一 関原俊夫 高尾登代子 高堂美子 竹本清信 田村清一 常川真理 永井早苗 中村喜美子 中村忠雄 中村富美枝 長原博 西野美枝子 橋爪佐智子 馬場正男 林恭史 林ミツ子 針田樹子 前田良夫 丸山喜美子 三田大成 水口久幸 南谷正貴 村中二三子 毛利鈴子 森誠 山口正代 山地とし江 山元紀江 渡邊靖人（順不同）

遺物整理参加者一覧

阿部陽子 林ミツ子 植谷幸子 高堂美子 常川真理 永井早苗 浜田美紀 針田樹子 村中二三子 毛利鈴子 山地とし江 山元紀江（順不同）

目 次	次
I 遺跡の位置と環境	1
II 調査に至る経緯	2
III 調査の概要	2
1. 調査の経過	2
2. 立地と層序	2
3. 遺構	4
4. 遺物	4
(1) 土器	4
(2) 石器	4
IV まとめ	4
写真図版	25
V 大山村の歴史環境	9
1. はじめに	9
2. 大山村の遺跡	9
VI 東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡	12
1. 遺跡の立地	12
2. 遺跡の概要	12
3. 集成の成果	12
4. 大山村の縄文時代中期住居跡について	18
5. 東黒牧上野遺跡A地区の遺物集中区	24
6. おわりに	24
VII 参考文献	25
写真図版	25
報告書抄録	25

挿 図 目 次

第1図 地形と周辺の遺跡	第4図 平成10年度調査区 造構配置図
第2図 地形と区割り図	第5図 平成11年度調査区 造構配置図
第3図 造構配置概略図	第6図 遺物実測図
第7図 参考図 大山村町内遺跡の時代・時期別位置図	
第8図 参考図 大山村の縄文中期における土器品などの組成比（1）	
第9図 参考図 大山村の縄文中期における土器品などの組成比（2）	
第10図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区・花切遺跡土器品他集成図（1）	
第11図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区・花切遺跡土器品他集成図（2）	
第12図 大山村の縄文中期における石器の用途別組成比	
第13図 大山村の縄文中期における実用的石器の組成比	
第14図 大山村の縄文中期における非実用的石器の組成比	
第15図 東黒牧上野遺跡A地区的住居跡面積と標高	
第16図 東黒牧上野遺跡A地区・花切遺跡の地形選択図	
第17図 東黒牧上野遺跡A地区的住居跡面積分布図	
第18図 炉跡の面積分布図	
第19図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区遺物実測図	
第20図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区・花切・花切西遺跡住居跡配置図	
第21図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区・花切遺跡の住居跡・炉跡集成図	
第22図 参考図 大山村花切遺跡・住居跡・出土遺物（1）	
第23図 参考図 大山村花切遺跡・住居跡・出土遺物（2）	
第24図 参考図 大山村東黒牧上野遺跡A地区89年度調査区 住居跡・出土遺物（1）	
第25図 参考図 大山村東黒牧上野遺跡A地区89年度調査区 住居跡・出土遺物（2）	
第26図 参考図 大山村東黒牧上野遺跡A地区89年度調査区 住居跡・出土遺物（3）	
第27図 参考図 大山村東黒牧上野遺跡A地区89年度調査区 住居跡・出土遺物（4）	
第28図 参考図 大山村東黒牧上野遺跡A地区94年度調査区 住居跡・出土遺物（1）	
第29図 参考図 大山村東黒牧上野遺跡A地区94年度調査区 住居跡・出土遺物（2）	
写真図版第1 調査区（第2次・第3次）全景	写真図版第4 遺物
写真図版第2 第2次調査区全景	写真図版第5 大山村東黒牧上野遺跡A地区出土遺物
写真図版第3 第3次調査区全景	写真図版第6 参考写真 東黒牧上野遺跡A地区

表 目 次

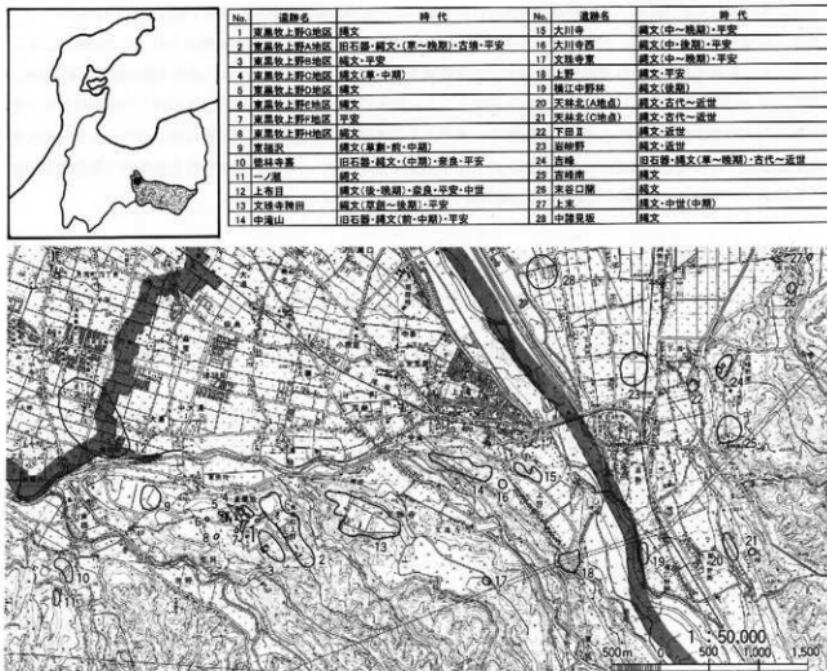
表1 調査遺跡一覧	表8 住居跡主柱穴数
表2 遺跡ごとの土器品などの出土点数	表9 住居跡の主柱穴と炉跡計測表
表3 遺跡ごとの石器出土点数	表10 炉跡石組組成
表4 石器用途分類	表11 住居内、炉内の埋設土器・配石
表5 遺跡の面積と斜面の勾配	表12 炉跡平面形
表6 住居跡平面面積	表13 炉跡面積
表7 住居跡平面形	
表14 大山村花切遺跡・東黒牧上野遺跡A地区的住居跡計測表	
表15 大山村東黒牧上野遺跡A地区出土の遺物計測表	
表16 大山村遺跡一覧表	

(表紙は東黒牧上野遺跡G地区遠景・南より)

I 遺跡の位置と環境

東黒牧上野遺跡G地区は、富山県上新川郡大山町東黒牧上野地内に所在する。大山町は県の南東部に位置し、東は長野県、南は岐阜県、西は大沢野町、北は富山市及び常願寺川を隔てて立山町に接しており、東西に長い町域となっている。大山町の地形は、大半が山地であるが中部山岳国立公園、有峰県立自然公園など豊かな自然に恵まれている。標高は、100mから約3,000mにおよび、高低差が著しいため気象条件も地域により異なる。集落の発達している上流地区等の年間平均気温は13.0°Cで、年間降水量は2,000mm前後であり富山平野の平均と大きな差はない。町の中心部は上流地区を扇頂とした常願寺川の扇状地がしめる。この川は町の東境を北流し、扇頂部や上流域には発達した河岸段丘を見ることができる。高位段丘として栗原野台地、下位段丘として上野段丘がそれにあたる。また、上野段丘の西側には神通川の支流熊野川が流れ、その左岸に文殊寺地区及び東黒牧地区が所在する。この地域は常願寺川の旧扇状地が隆起した後、熊野川とその支流によって開拓された丘陵である。当遺跡はこの東黒牧地区の丘陵上に立地する(第1図)。遺跡がのる丘陵は、東西約2km、南北200から600mと東西に細長く、標高は140から200mを測る。平野部と接するあたりの比高差は40から80mあり勾配のきつい斜面となっており、丘陵の東側縁辺部一帯に遺跡が広がっている。東黒牧上野遺跡は、A・B・C・D・E・F・G・Hの8地区にわたって分布している。

周辺の遺跡としては、東福沢遺跡・文殊寺碑田遺跡・大川寺遺跡・中滝山遺跡があり、常願寺川対岸の立山町の段丘上には吉峰遺跡・吉峰南遺跡・岩崎野遺跡がしられる。いずれも常願寺川の両岸に発達した河岸段丘上に広く点在している。



第1図 地形と周辺の遺跡

II 調査に至る経緯

大山町は、町域の大部分が山地である地域的特性から平坦地と山地の間に位置する丘陵部、いわゆる里山地域をいかに開発し、町勢の振興発展に結びつけるかが町の大きな課題となっていた。このため、昭和56(1981)年度には大山町里山開発整備計画を策定し、福沢・文珠寺・上滝上野・岡田・牧・和田の6地域を里山地域とした。昭和60(1985)年度には学園都市特別委員会を設置し東黒牧・文珠寺の2地区を対象として、大学を中心とする学園都市建設を計画した。この東黒牧地区に東黒牧上野遺跡が所在する。

東黒牧上野遺跡は古くより知られており、昭和の前半(1930年代)にはその名が文献にみえる、初出については富山大百科事典(1970)、斎藤隆の記述が詳しい(北日本新聞社 1994)。東黒牧上野遺跡は昭和47年の『富山県遺跡地図』(富山県教育委員会 1972)に縄文時代中期の遺跡として登載されていたが、詳細な調査は昭和60(1985)年の町史編纂事業の一環として実施された分布調査までは行われていなかった。この分布調査では東黒牧上野丘陵全体に遺跡は広がりをもち、縄文時代だけではなく旧石器・奈良・平安時代の遺物を確認するとともに、東黒牧上野塚や東黒牧上野窓跡の新たなる発見もあった(大山町教育委員会 1989)。これにより学園都市建設計画との調整を計るため昭和62(1987)・63(1988)年度に遺跡の範囲と遺存状況を確認するため試掘調査を実施した。この結果、東黒牧上野遺跡はA・B・C・D・E・F・G・Hの8地区に分けられた。また、大山町では新知見の縄文時代早期の押型土器(C地区)と古墳時代の堅穴住居跡(G地区)が検出された。このため遺跡の保護措置を検討した結果、学校法人 富山国際学園 富山国際大学(以下富山国際大学)の建物等の計画変更を行い、一部を現状のまま保存することになった(大山町教育委員会 1989)。平成2年4月に富山国際大学が開学し、平成10(1998)年には新学部(以下地域学部)の設立申請を文部省に提出した。

地域学部建設予定地は、昭和62(1987)年度の試掘調査で古墳時代の堅穴住居跡が検出されているG地区にあたるため、大山町教育委員会では遺跡範囲を確認する試掘調査を平成9(1997)年度に行い、遺跡の推定範囲を約1,990m²と判断した。平成10年1月には、富山県埋蔵文化財センター指導のもと、学校法人富山国際学園と当教育委員会で協議を行った。その結果、学校法人富山国際学園は、調査により確認されている遺構を可能な限りのこせるように校舎の配置設計を一部変更し、古墳時代の堅穴住居跡を保存することとした。しかし、遺跡の推定範囲内で設計変更が困難な約960m²については、平成10年度以降に発掘調査を行い記録保存することとなった。

III 調査の概要

1. 調査の経過

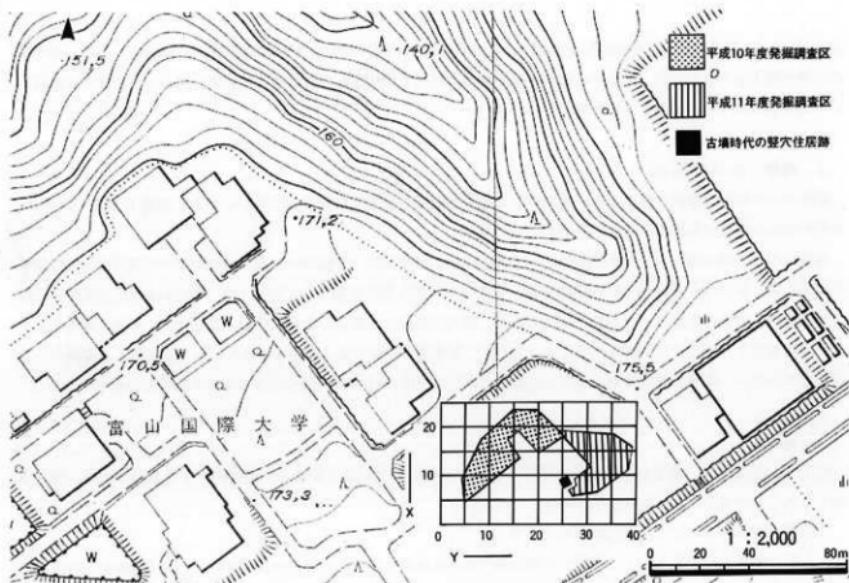
今回の調査は、学校法人 富山国際学園 富山国際大学の地域学部建設工事にともない、図書館・大講義室および講義研究棟4号館等の建設予定地に係わる部分について実施した。

発掘調査はバックホウにより表土除去を行った後、国家座標軸に合わせて10m間隔に基準杭を設けX軸を南北方向に、Y軸を東西方向にとり、2m×2mを1区画として設定した(第2図)。その後、人力により遺物包含層の掘削を行い地山上面での遺構検出作業を実施し、遺構ごとに発掘作業を行った。

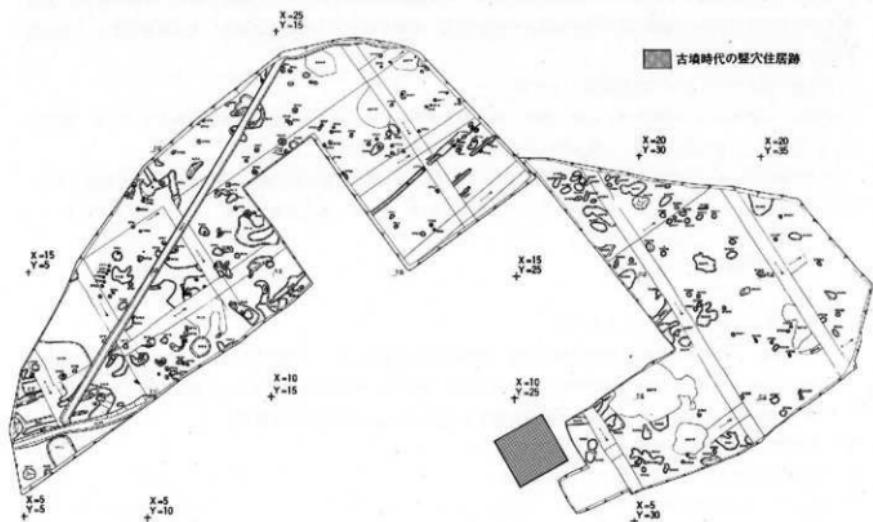
2. 立地と層序

調査区は、東黒牧上野丘陵の東南部に位置し標高176~180mである。調査区から東へ約80mの所には堅穴住居跡が35棟(未掘含む)確認されている東黒牧上野遺跡A地区があり、北へ約30m行くと勾配のきつい斜面となっている。

調査区の基本層序は、1層表土(10~20cm)、2層10YR 3/3暗褐色粘質土(10~20cm)、3層10YR 3/1黒褐色粘質土



第2図 地形と区割り図



第3図 造構配置概略図 (1:400)

(10~20cm)、4層10YR 3/2 黒褐色粘質土(5~10cm)と堆積して5層10YR 5/6 黄褐色粘質土の地山層となる。調査区内の表土層上面の高低差は、南北で約12cm南側が高く、東西では約35cm西側が高く、北東に向かって緩やかに傾斜している。遺物は1層~4層にかけて出土している。

3. 遺構（第3図～5図）

遺物の大半を包含層から検出しているため、時代を確定できる遺構はほとんどない。また、確認した溝・穴には、木根や後世の搅乱に起因するものがある。

調査区では、溝12条・穴217個を確認した。SD06・SK03・SK204・SK209からは、縄文時代の土器片（時期不明）を検出した。X12Y8からは縄文時代中期中葉（第6図1）の土器片を集中して検出した。SK36は整穴住居跡状の掘り込みをもっていたが柱穴や、炉跡の検出もなく、整穴住居跡とは確認できなかった。SK201は、床面に焼上がり薄く広がり床面直上の覆土には木炭片が多く入っており、炭焼窯と思われる。炭焼窯の年代を示す遺物は、遺構内からは検出していない。第3次調査区から検出した遺物のほとんどは、X10Y30付近に広がる風倒木痕からの検出である。

4. 遺物

出土した土器には、縄文土器（中期・後期・晚期）、土師器、珠洲などがある。遺物の大半を占めるのは、縄文土器であり、そのほとんどを包含層から検出している。

(1)土器（第6図1～8・写真図版第4-1～9）

1～7は縄文土器である。1は深鉢で中期中葉の古串田新式に比定される（小島1972）。2は後期末の八日市新保Ⅱ式に比定される（野々市教育委員会1983）。3は富山県では土器型式が確定していない晩期末に該当する。このため、石川県の土器型式を用いると下野式に比定される（吉岡1971）。4～7は時期不明である。4は頸部破片と思われる。5～7は体部破片である。5には煤が見られる。9は遺物実測図にはないが七輪器である（写真図版第4-9）。弥生時代末から古墳時代前期の高坏の坏部破片と思われる。朱彩されている可能性がある。8は珠洲である。壺の体部破片と思われる。

(2)石器（第6図10～16・写真図版第4-10～16）

石器には、磨製石斧、打製石斧、石皿、剥片、砥石などがあり、そのほとんどを包含層から検出している。磨製石斧、打製石斧、石皿は伴出土器から縄文時代中期以降のものと考えられる。

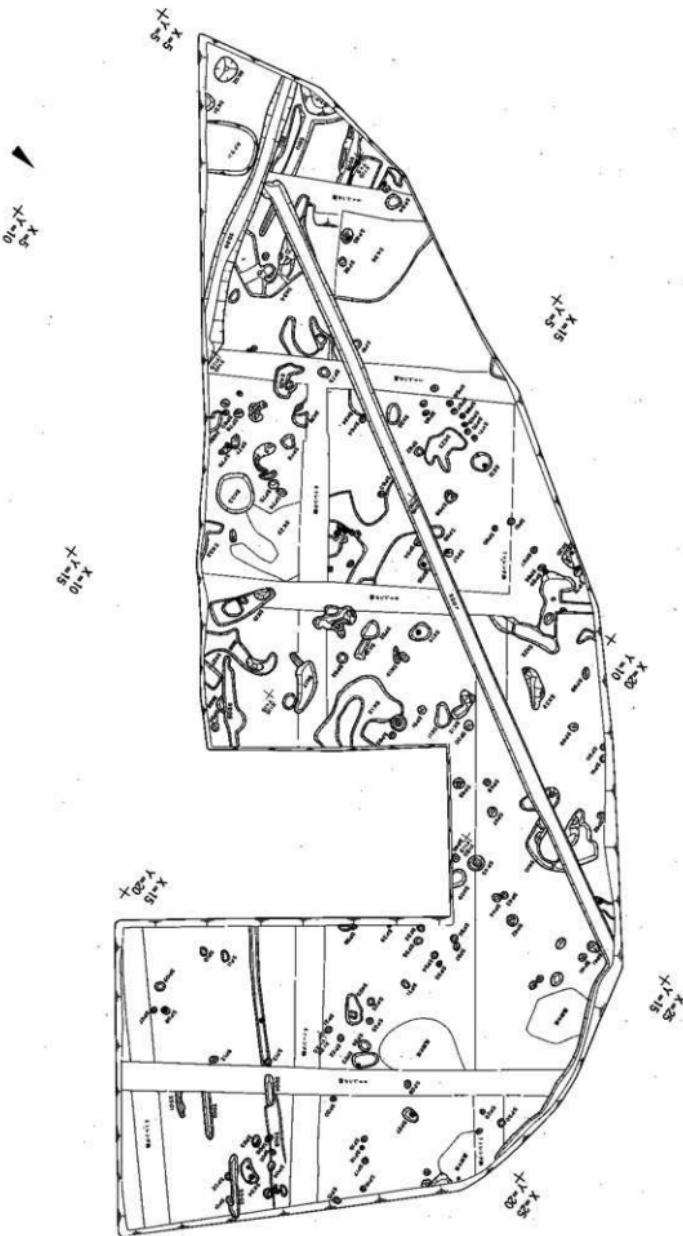
10は磨製石斧である。形態は定角式で刃部を欠損している。11～13は打製石斧である。形態は3点とも環形である。14は石皿である。中央に向かいレンズ状の凹みがある。15は剥片である。表面採集で検出した。16は砥石である。

IV まとめ

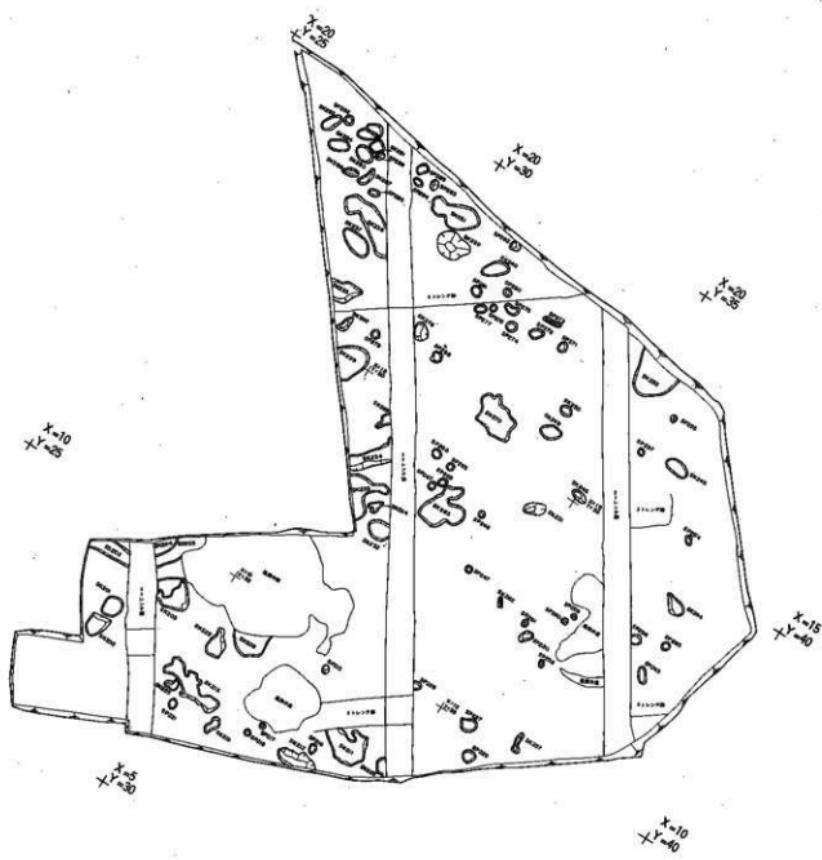
今回の成果を要約して、まとめとしたい。

- 1 当遺跡は、常願寺川の旧扇状地が隆起した後、難野川とその支流によって削折された丘陵上に立地する。遺跡がのる丘陵は、東西約2km、南北200から600mと東西に細長く、標高は140から200mを測る。遺跡の北、約30m先は勾配のきつい斜面となっており平野部と接するあたりの比高差は約60mを測る。
- 2 縄文時代中期・後期・晚期の資料を検出した。
- 3 弥生時代末から古墳時代前期の資料を検出した。
- 4 調査区内（地域学部増設建設予定地）から、昭和62（1987）年度の試掘調査により検出されている古墳時代の整穴住居跡は、地域学部の建物設計を工夫することで保存した。

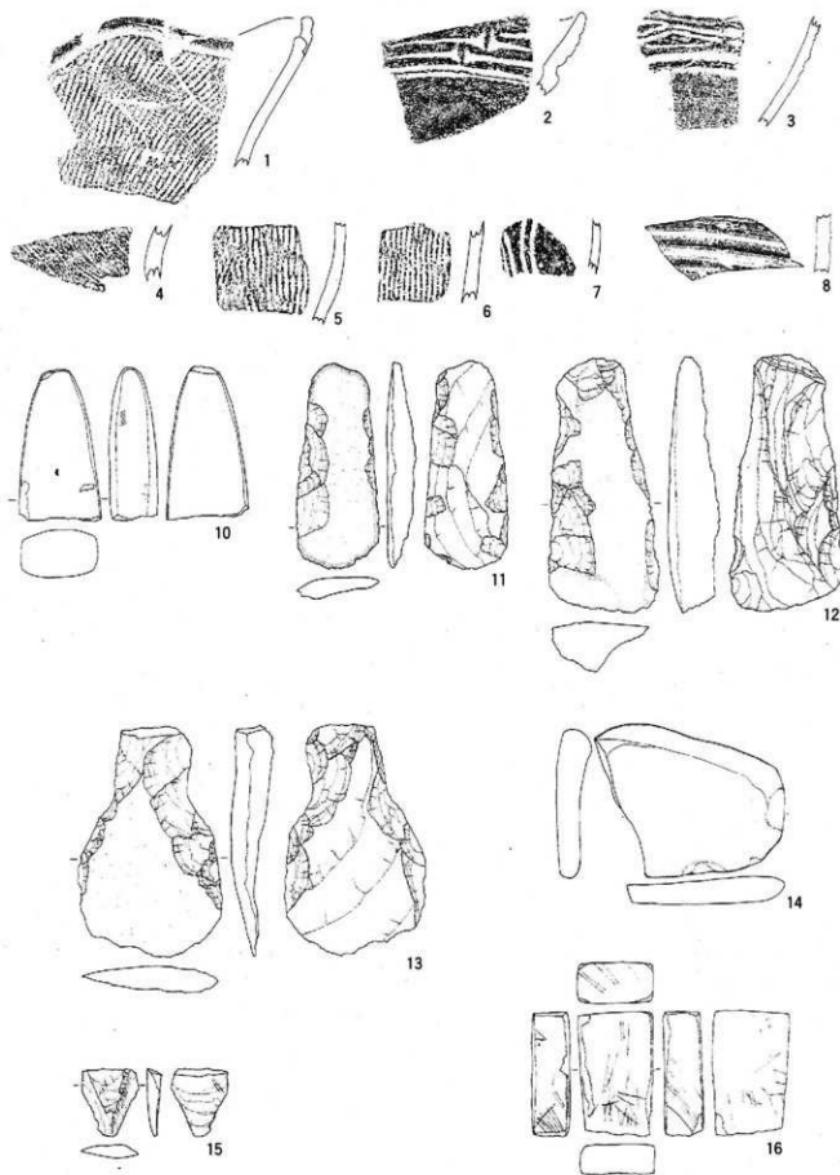
（小松 博幸）



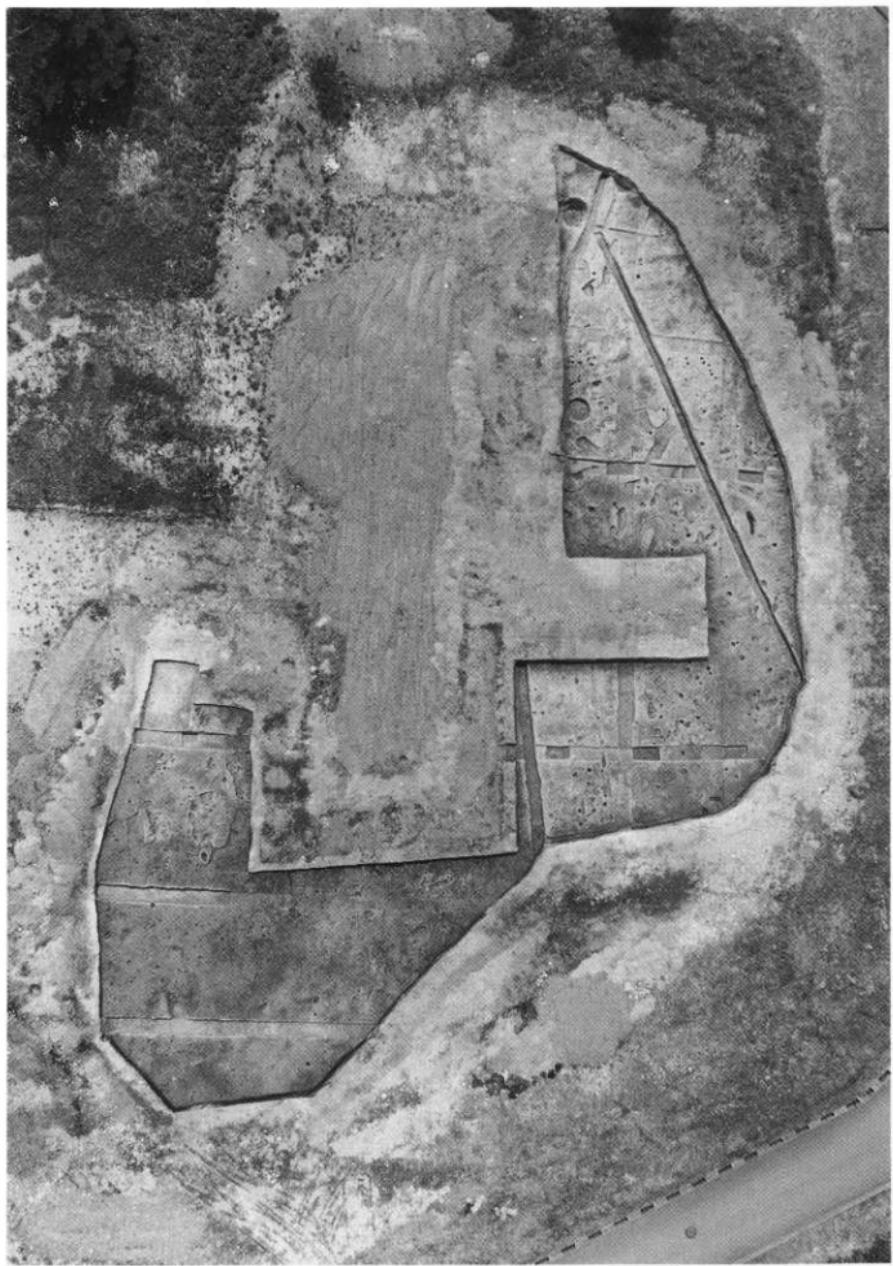
第4図 平成10年度調査区 造構配置図 (1:200)



第5図 平成11年度調査区 造構配置図 (1:200)



第6図 遺物実測図 1~13・15・16 (1/3)、14 (1/9)



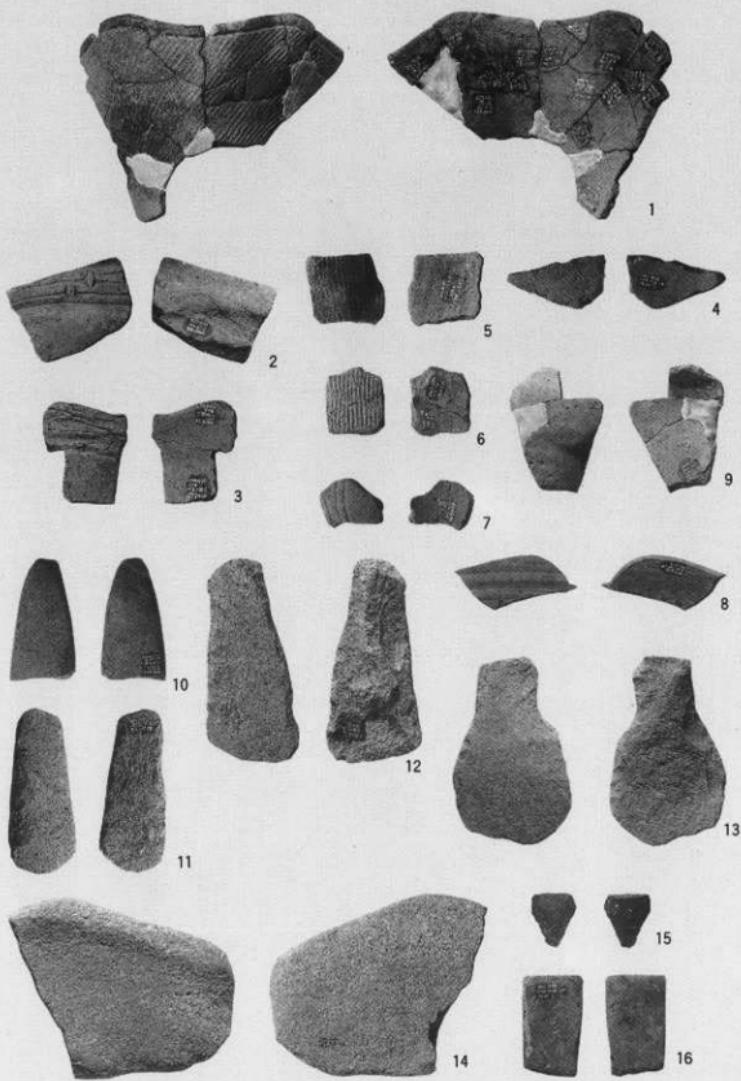
写真図版第1 調査区（第2次・第3次）全景



写真図版第2 第2次調査区全景（北西より）



写真図版第3 第3次調査区全景



写真図版第4 造物 1~13・15・16 (1/3) 14 (1/9)

V 大山町の歴史環境

1. はじめに

ここでは、大山町に所在する遺跡間の相対的な関係などを把握するため、これまでに判明している事柄や時代ごとの簡単なまとめなどを行う。特にここでは、縄文時代中期の東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡を中心にまとめてみる（第7図）。そして、これらのまとめが今後の縄文時代の大山町における集落の様相などを解明する際の基礎になればと思う。

大山町は、富山県の南東部に位置し、東西に長い町域をもち、北部を富山市、東部を立山町、西部を大沢野町、南部を岐阜県とそれぞれ接する。地勢は、山地が大半を占め、常願寺川によって扇状地と段丘が形成されている。なお、大山町の位置などは、前章で詳述されており、そちらを参照願いたい。また、本文や図中では、東黒牧上野遺跡A地区1989年度調査区の1号住居跡は「1989-1号住」などと略記することにした。同遺跡の1994年度調査区及び花切遺跡もこれに準ずる。

2. 大山町の遺跡

大山町では、森氏によると昭和26年の時点での遺跡数を確認されていた（森 秀雄 1951）。その後の調査によって遺跡数は、平成11年度までに69遺跡が確認されるに至った。遺跡は、大山町の平野部と平野部を北に望む東黒牧上野丘陵周辺の山地にかけて集中している。山間部では、千垣から栗巣野までの常願寺川に沿う高位段丘上に集中しており、その他の山間部はまばらである。

大山町内遺跡の時代・時期別の遺跡数をまとめてみると次のとおりとなった。旧石器時代5遺跡、縄文時代27遺跡、弥生時代1遺跡、古墳時代1遺跡2地区、古代14遺跡、中世及び近世36遺跡である（第7図）。

次に各時期ごとの概要をまとめてみる。

旧石器時代の遺跡は、5遺跡あり、大山町北西部に位置する東黒牧上野丘陵周辺の丘陵上から丘陵裾部にまとまる。西山南遺跡のみ熊野川の支流である黒川の上流域に立地する。徳林寺裏遺跡と東黒牧上野遺跡A地区は、古代までの複合遺跡であり、東福沢遺跡は縄文時代中期まで続く。

縄文時代の遺跡は、28遺跡あり、大山町全域でみられる。多くの遺跡は、大山町北西部に位置する東黒牧上野丘陵周辺に立地する遺跡群と大山町南東部に位置する栗巣野台地周辺の高所（標高の高い地域）に立地する遺跡群の2地区に分かれる。

縄文時代草創期 3遺跡。遺跡は、大山町の北西部を東西に流れる熊野川の南側、東黒牧上野丘陵周辺にまとまる。一ノ瀬遺跡は、縄文時代前期まで、東福沢遺跡は旧石器時代から縄文時代中期まで、文珠寺碑田遺跡は縄文時代後期までそれぞれ存続する。3遺跡とも古代の遺物の散布が確認されている。

縄文時代早期 4遺跡。遺跡が形成される地域は、縄文時代草創期と同じである。縄文時代草創期の遺跡に東黒牧上野遺跡C・A地区が加わる。東黒牧上野遺跡C地区は、縄文時代の間で、縄文時代中期に途切れるものの縄文時代晩期まで続く。旧石器時代から当期を含む遺跡は、7遺跡8地点あり、当期までの遺跡数は、大山町の縄文時代に属する遺跡の中でも多い方と言えよう。

縄文時代前期 6遺跡。この頃からは、常願寺川による扇状地が始まる谷口や大山町南部の山間部にも遺跡の形成がみられるようになる。中滝山遺跡は、旧石器時代から縄文時代中期までみられる。熊野川の支流である黒川の上流域に立地する官野遺跡は、縄文時代中期までみられる。

縄文時代中期 12遺跡。この頃からは、大山町東部に位置する栗巣野台地周辺の高所にも遺跡の形成がみられるようになることで、大山町内のほぼ全域に遺跡の分布が広がる。縄文時代全時期を通して、遺跡数が最も増加する時期である。

中央農高B遺跡と和田遺跡は、当期に終始する遺跡である。大川寺西遺跡と大川寺遺跡は、縄文時代晩期まで続き、古代にも遺物の散布がみられる。本稿であつかう花切遺跡・東黒牧上野遺跡A地区は、この時期に属する集落である。花切・花切西遺跡は、平成11年度までに調査がなされており、県内最高所の集落跡が確認された。また、東黒牧上野遺跡も調査により集落が確認され、特にA地区の大きな住居跡の検出などにより県指定史跡となり保存されている。

縄文時代後期 10遺跡。遺跡が形成される地域は、東黒牧上野丘陵周辺と栗原野台地周辺の高所に立地する。遺跡数は、縄文時代中期に次いで多い。富山市との境に所在する上布目遺跡は、縄文時代晩期まで続く平野部の遺跡である。原岩跡は、縄文時代晩期まで続く高所の遺跡である。

縄文時代晩期 7遺跡。遺跡は、縄文時代後期と同じ地域に形成がみられる。当期から新たに形成される遺跡はない。花切西遺跡は、この時期まで続く高所の遺跡である。

弥生時代の遺跡は、中央農高A遺跡1つで、大山町北西部に位置する福沢地区の台地上に立地する遺跡である。

古墳時代の遺跡は、東黒牧上野遺跡G・A地区の1遺跡2地区のみである。G・A地区から遺物の散布が、G地区から住居跡1棟が確認されている。古墳は現在まで確認されていない。

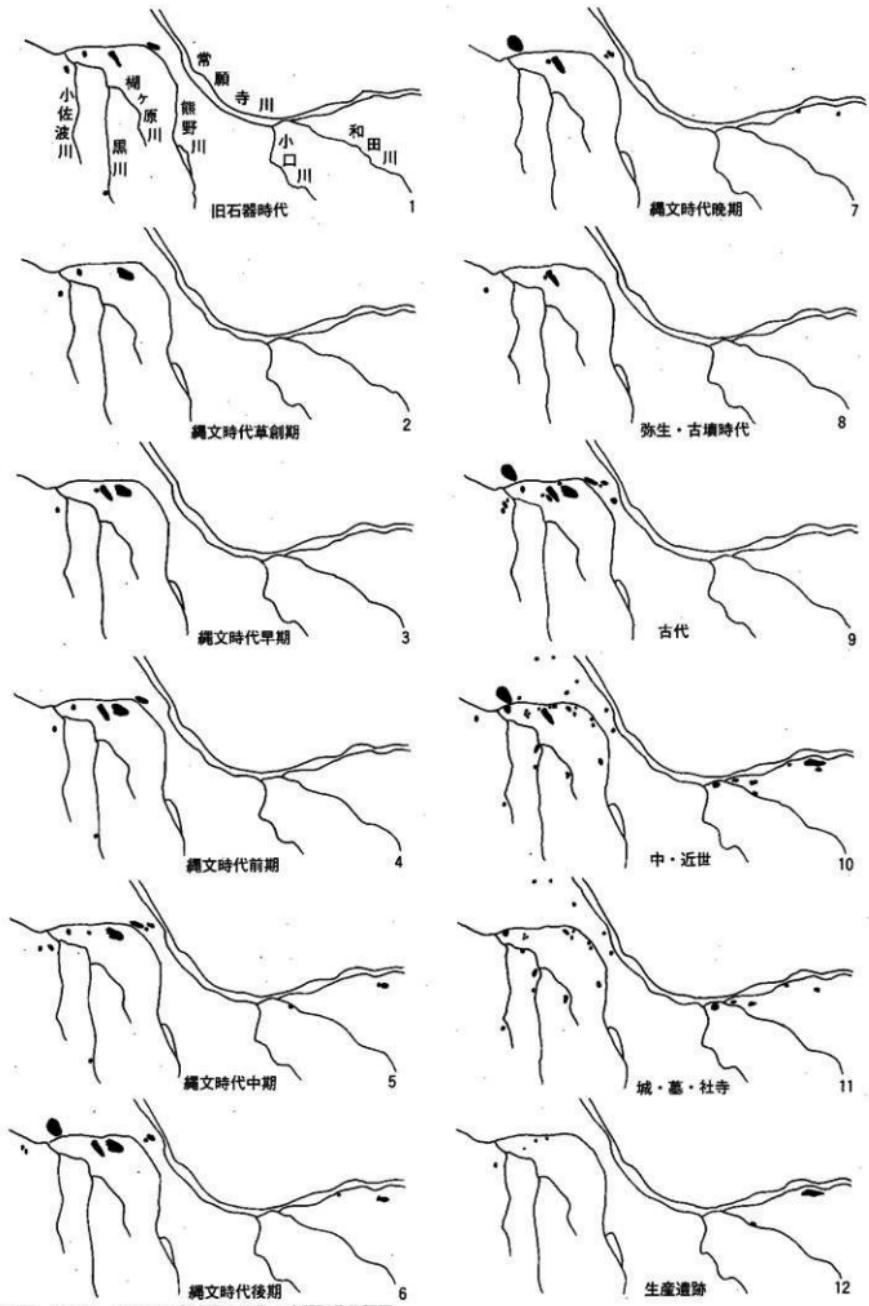
古代の遺跡は、14遺跡あり、高所の遺跡ではなく、大山町北西部に位置する東黒牧上野丘陵周辺にまとまる。当期から新たに東黒牧上野遺跡F・B地区、上野遺跡、徳林寺前遺跡が加わる。一ノ瀬遺跡は、炭焼き窯跡である。

中世及び近世の遺跡は、36遺跡あり、遺跡数は縄文時代より多く、古代の2倍以上に増加する。大山町のほぼ全地区で見られる。遺跡は、城・館跡や墓などが多く、集落は少数である。また、集落や散布地で平野部に営む遺跡はない。

次に中世の遺跡を種類別にみてみる。城・砦跡は、大山町南部から西部の山間部から舌状にのびる尾根上に室町・戦国期の城が4つ、見通すようにには一列に並ぶ。大山町南東部の山間部地域では、常願寺川に沿って一列に並んでいるようである。墓・塚・社寺などは、大山町西部の山間部から平野部にかけてまとまる。社寺は、元本宮寺跡の一箇所のみである。山間部の本宮地区には、祭祀遺跡とされている与四兵衛山遺跡がある。福沢地区では近世に至り、東黒牧塗や越中瀬戸初期の窯である文殊寺埴輪窯が生産を開始している。高所では、亀谷銀山で銅を生産している。なお、時期は不明であるが、花切遺跡などでは、道路跡と思われる遺構があり、古代山岳信仰とともに注意される。

表1 調査遺跡一覧

遺跡名	地名	調査主体	調査期間	調査面積	備考	
東黒牧上野遺跡		大山町教育委員会	880720	270m ²		
		大山町教育委員会	880530-880531	365m ²		
東黒牧上野遺跡B地区			1987		試 勘	
			1988		試 勘	
東黒牧上野遺跡C地区			1989		試 勘	
東黒牧上野遺跡D地区		大山町教育委員会	881101-881118	938m ²	富山県収蔵保管	
		大山町教育委員会	870606-871125	1969m ²	富山県収蔵保管	
東黒牧上野遺跡E地区		OHK-C	870606-870815	309m ²	富山県収蔵保管	
		大山町教育委員会	870606-870815	309m ²	富山県収蔵保管	
東黒牧上野遺跡F地区		OHK-C	870606-870815	1396m ²	富山県収蔵保管	
		大山町教育委員会	880704-880718	285m ²	富山県収蔵保管	
東黒牧上野遺跡G地区		大山町教育委員会	880704-880718	100m ²		
		大山町教育委員会	870606-870815	1822m ²	富山県収蔵保管	
東黒牧上野遺跡H地区		OHK-B	880704-880718	600m ²	富山県収蔵保管	
		大山町教育委員会	890301-890603	938m ²	富山県収蔵保管	
東黒牧上野遺跡I地区		S-OHK	870606-870815	1248m ²	富山県収蔵保管	
		大山町教育委員会	880714-881118	848m ²	富山県収蔵保管	
東黒牧上野遺跡J地区		OHK-A	870606-870815	8061m ²	富山県収蔵保管	
		大山町教育委員会	880515-880611	56m ²	富山県収蔵保管	
東黒牧上野遺跡K地区		2' 次	大山町教育委員会	890603-900608	464m ²	富山県収蔵保管
		大山町教育委員会	900603-900608	181m ²	富山県収蔵保管	
東黒牧上野遺跡L地区		OHK-U-A	940704-941118	110.5m ²	富山県収蔵保管	
		大山町教育委員会	940704-941118	110.5m ²	富山県収蔵保管	
文殊寺埴輪窯		OHM	9003-9007			
		大山町教育委員会	940416-940704	480m ²	富山県収蔵保管	
栗原野台地		OYH	940603-910607	624.5m ²	富山県収蔵保管	
		大山町教育委員会	910603-910607	620m ²	富山県収蔵保管	
一ノ瀬遺跡			9209-9206	4038m ²		
			910603-910607	49m ²		
一ノ瀬遺跡A地区			910603-910607	64m ²		
			910603-910607	11m ²		
一ノ瀬遺跡B地区			910603-910607	96.5m ²		
			910603-910607	4m ²		
一ノ瀬遺跡C地区			910603-910607	96.5m ²		
			910603-910607	4m ²		
一ノ瀬遺跡D地区			910603-910607	96.5m ²		
			910603-910607	4m ²		
徳林寺前遺跡			910603-910607	96.5m ²		
			910603-910607	4m ²		
徳林寺前遺跡			910603-910607	96.5m ²		
			910603-910607	4m ²		
花切遺跡			841001-841009	171m ²		
			851126-851204	79m ²	富山県収蔵保管	
花切遺跡		1次OHK	861126-861129	10m ²	富山県収蔵保管	
			870801-870716	250m ²	富山県収蔵保管	
花切遺跡		2次	881024-881025	10m ²		



第7図 参考図 大山町内遺跡の時代・時期別位置図

VI 東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡

1. 遺跡の立地

東黒牧上野遺跡A地区は、大山町西部に位置し、台地状を呈する東西約2km、南北0.2~0.6kmの東黒牧上野丘陵の東側縁辺部に立地する。標高140~200mを測り、比高差約30mを測る。遺跡の北側には、神通川の支流である熊野川が流れている。遺跡の東側約6kmの地点を流れる常願寺川の両岸には、河岸段丘が発達しており、段丘の平坦面や緩斜面上に縄文時代の遺跡が多く点在している。東黒牧上野遺跡は、東黒牧上野丘陵全体に広がり、遺跡の面積は約40万m²に及ぶと推定されている。遺跡は、中心とする時代・時期が異なることから8地区に分けられている。A地区は、遺跡群の最も東側に位置し、西側にはG・B地区が存在する（大山町教育委員会 1989、1990、1995）。

花切遺跡と花切西遺跡は、大山町南東部に位置し、常願寺川が形成した河岸段丘である栗巣野台地上に立地する。標高は約553mを測り、現河床との比高差が約150mある。高位段丘は、旧河床の様相を残している。両遺跡の東側には、常願寺川が流れている。栗巣野台地と対峙する芦峰寺台地にも縄文時代の遺跡が確認されている（大山町教育委員会 1988）。東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡・花切西遺跡は、約14kmを隔てて存在する。

2. 遺跡の概要

本稿では、縄文集落が形成される自然地形・住居跡・遺物の組成の有機的な関係を考えるための基礎として、集落遺跡として大山町に所在する東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡の2遺跡を取り扱った。東黒牧上野遺跡A地区は、丘陵上に立地し、花切遺跡は高位段丘上に立地する縄文時代中期頃の集落跡である。

東黒牧上野遺跡A地区 東黒牧上野遺跡A地区的調査面積は1995年度までの時点では約4500m²である（表1）。東黒牧上野遺跡A地区からは、未発掘ではあるが竪穴住居跡と思われる遺構13箇所を含めて、単設単式石組炉を持つ縄文時代中期の住居跡21棟が検出されている。出土した土器は、古串田新式から串田新I式に主体を置いている。集落内での住居跡の位置の変遷は、微地形ながら段丘の迫り出した部分を利用して、時期・場所をえらべられたと考えられている（大山町教育委員会 1990、1995）。また、須恵器と土師器の散布も確認されている。

花切遺跡 花切遺跡の調査面積は、1987年度までの時点では約260m²である。花切遺跡からは、単設単式石組炉を持つ縄文時代中期の竪穴住居跡4棟、穴6箇所が検出されている。出土した土器は、古串田新式と串田新II式を中心として、串田新I式、岩崎野式に比定されるものが少量存在する。集落は串田新II式段階で土器量がピークをむかえ、後期前業の気屋式が出上しないことから、岩崎野式段階で集落を廃棄したと考えられている（大山町教育委員会 1988）。花切遺跡の西方約40mには、花切西遺跡が存在する。花切西遺跡も縄文時代中期頃の集落であり、1998年度に調査が行われた。この時期の集落としては、花切遺跡とともに県内最高所に位置し、石器製作関連の遺物とヒサイ製品の出土とともに縄文時代の生活・文化を復元する上で貴重な遺跡であることが明らかになった。

3. 集成の成果

ここでは、東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡出土遺物の中で土製品と石器などの出土状況や数量、住居跡の構造や規模について集成を行った。また、扱った調査資料は、平成6年（1994年度）の調査までに報告されたものである。なお、平成11年度までの調査の結果、花切西遺跡からは住居跡が15棟検出され、花切遺跡とあわせ合計46棟となり、花切遺跡群全体では45棟以上になると推定されている。ちなみに富山県内で住居跡の多い遺跡は、立山町二ツ塚遺跡の39棟、朝日町境A遺跡の36棟があり、これらもそれ以上の住居の存在が推定されている。花切遺跡群（註1）の現時点の住居数としては、これを上回るかもしれない同じであり、石器生産を行う集落で、県内最高所に位置し、かつ最

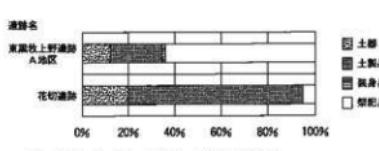
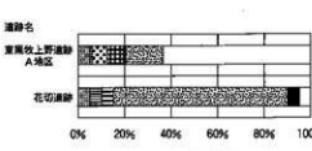
大規模の集落であることが判明した。なお調査結果は別に報告書が刊行される予定である。

土製品など 東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡では、土製品として釣手土器、有孔鉢付土器、鉢付土器、三角墳形土製品、小型土器、土製耳飾、円板状土製品、把手状土製品、土偶が出土している。土製品の出土総点数は次のとおりである（表2）。

表2 遺跡ごとの土製品などの出土点数

整数は出土点数、（ ）内は住居1棟あたりの土製品などの所持数 単位：点／棟

遺跡名	釣手土器	有孔鉢付土器	鉢付土器	三角墳形土製品	小型土器	土製耳飾	円板状土製品	把手状土製品	土偶	合計
東黒牧上野遺跡A地区	3 (0.09)	1 (0.03)	0 (0.00)	4 (0.12)	4 (0.12)	1 (0.03)	10 (0.29)	0 (0.00)	40 (1.16)	63 (1.85)
花切遺跡	1 (0.25)	1 (0.25)	1 (0.25)	0 (0.00)	0 (0.00)	0 (0.00)	15 (3.75)	1 (0.25)	1 (0.25)	20 (5.00)
合計	4 (0.11)	2 (0.05)	1 (0.03)	4 (0.11)	4 (0.11)	1 (0.03)	25 (0.66)	1 (0.03)	41 (1.06)	83 (2.16)



住居跡数と土製品などの出土点数から、住居1棟あたりの土製品などの所持数について考えてみた。数値は各遺跡の土製品などの出土点数を各遺跡の住居数でそれぞれ割ることで求めた。第9図では、釣手土器、有孔鉢付土器、鉢付土器、小型土器、把手状土器を土器として、三角墳形土製品、円板状土製品を土製品として、土製耳飾を装身具、土偶を祭祀具として分類した。

東黒牧上野遺跡A地区では、鉢付土器、把手状土製品が出土していないが、花切遺跡では出土している。第8図から、出土遺物全体に占める割合が5～6%の釣手土器、三角墳形土製品、小型土器のグループ、2%の有孔鉢付土器、土製耳飾のグループとに分かれる。出土点数が比較的多いものについてみてみると、円板状土製品が16%、土偶が63%の割合で出土している。第9図から、土製品の占める割合が土器よりも大きいが、祭祀具が60%を越えているため、全体としては小さい。また、表2から土偶は、1.16点／棟と住居1棟につき1点以上所持していたことが判る。しかし、他の土製品は、必ずしも全ての住居が所持していたわけではないようである。

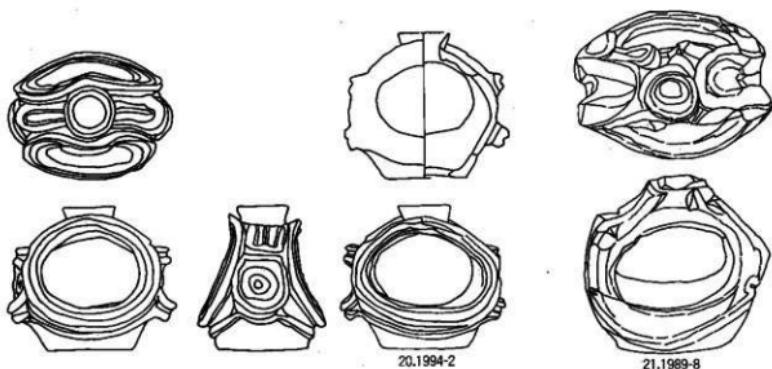
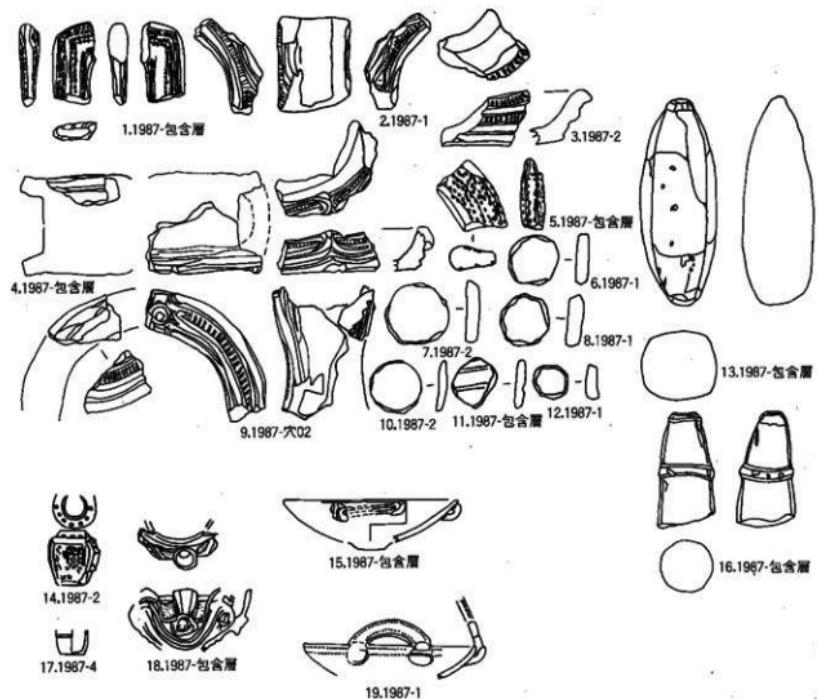
花切遺跡では、三角墳形土製品、小型土器、土製耳飾が出土していないが、東黒牧上野遺跡A地区では出土している。第8図から、出土遺物全体に占める割合が5%の釣手土器、有孔鉢付土器、鉢付土器、把手状土製品、土偶のグループ、75%の円板状土製品とに分かれる。出土点数が比較的多いものについてみてみると、円板状土製品が75%を占めている。第9図から、土製品の占める割合が土器よりも大きいが、東黒牧上野遺跡A地区とは逆に祭祀具の占める割合が小さく、土製品が70%を越えている。表2から円板状土製品は、3.75点／棟と住居1棟につきほぼ4点ちかく所持していたことが判る。しかし、他の土製品は、4棟のうち1棟の割合で所持していたようである。

次に、東黒牧上野遺跡A地区からの土偶の出土状況を住居跡との関わりからみてみた。

東黒牧上野遺跡A地区1989年度調査区における住居跡からの出土は、1号住居の8点、7・10号住居の各2点、2・4・5・8号住居の各1点である。住居外からの出土は26点である。東黒牧上野遺跡A地区1994年度調査区では、土偶とみられる破片が1点出土している。花切遺跡では、住居外から出土した1点のみである。東黒牧上野遺跡A地



第10図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区・花切跡土製品他集成図（1）



第11図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区・花切遺跡土製品他集成図（2）

区1号住居以外からの土偶の出土点数は、2点以下の出土にとどまっている。そこで、土偶の出土と土偶をもつ住居跡の相関関係を考えるために、東黒牧上野遺跡A地区の2・4・5・8号住居と7・10号住居の規模と形態を比較してみた。平面形は、2・4・5・8号住居が隅丸方形であり、7・10号住居がそれぞれ隅丸六角形と円形である。住居面積は、2・4・8号住居が11~13m²の範囲に納まるが、5号住居のみ17.05m²と大きい。7・10号住居は、それぞれ18.64m²と19.80m²と2・4・5・8号住居に比べて大きい。以上の観点から比較した結果、住居跡出土の土偶の出土点数と住居跡の平面形、住居面積との間に何らかの関係があるかも知れない。

また、住居跡出土遺物についてみてみると、土偶・三角形土器・小型土器などの土製品が目立つ(第22~29図)。土偶では、頭頂部に弦線で頭髪表現と目鼻表現の顔部を持つものがある。これらは各住居跡から出ており、特徴的である。そこで、実測図のあるものは、実測図を再トレースし、ないものは既刊の報告書写真からトレースして、実測図がわりとした(第10・11図)。これらの遺物の出土の意味は、花切遺跡の平成11年度調査の結果を含めて検討すべきと思われ、ここではそのための基礎提示とする。ただし、東黒牧上野遺跡A地区の住居跡と思われる遺構は、13箇所が未発掘であることや、調査面積や土器の廃棄に関する問題などが残り、ここで計算結果が必ずしも正確ではないため、参考とする。また、既刊の報告書で掲載できなかった遺物計測値などの一覧も当時の担当者の厚意により掲載することができた(表15)。

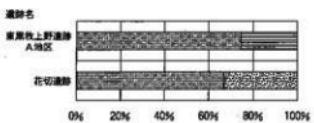
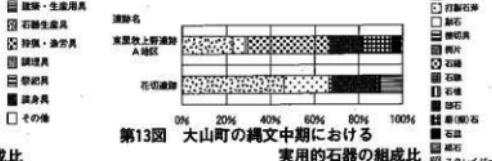
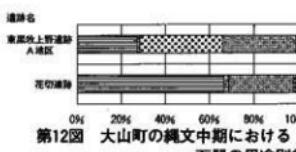
石器 東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡における石器出土総数は次のとおりである(表3)。両遺跡の性格を遺跡から出土した石器組成を通して考えるために、表4では石器を小林康男氏(小林1983)の分類に基いて用途別に分けることとし、建築・生産用具、石器生産具、狩猟・漁労具、調理具の実用的石器のグループ、祭祀具、装身具、その他の

表3 遺跡ごとの石器出土点数

用途 遺跡名	磨製 石斧	打製 石斧	敲石	鋸切 工具	剥片	石錐	石槍	凹石	底面石	石皿	砥石	スクレ イバー	石棒	垂飾 品	有孔円板状 石器	合 計	
東黒牧上野遺跡A地区	277	77	13	0	1	490	1	1	193	200	28	6	2	3	1	0	1293
花切遺跡	90	40	0	3	1	0	0	0	40	2	1	20	0	2	0	1	200
合計	367	117	13	3	2	490	1	1	233	202	29	26	2	5	1	1	1493

表4 石器用途分類

用途 遺跡名	実用的石器			非実用的石器			合計	
	建築・生産用具	石器生産具	狩猟・漁労具	調理具	祭祀具	装身具	その他	
東黒牧上野遺跡A地区	354	14	492	429	3	1	0	1293
花切遺跡	130	4	0	60	2	0	1	200



非実用的石器のグループとに分類した(小林 1983)。また、建築・生産用具には磨製石斧、打製石斧を、石器生産具には敲石、擦切具、剥片を、狩猟・漁労具には石錐、石鎌、石槍を、調理具には凹石、砥石、磨(擦)石、石皿、スクレイパーを含めた。

東黒牧上野遺跡A地区では、擦切具と有孔円板状石器が出土していないが、花切遺跡では出土している。実用的石器では敲石、石鎌、石槍、砥石、スクレイパーの出土点数は、10点前後からそれ以下で、これとは対照的に、石錐の490点を最多として、磨製石斧、打製石斧、凹石、磨(擦)石の200点以上の出土がみられた。このことから、所持していた石器の種類に偏りがあることが判る。第12図から、建築・生産用具、狩猟・漁労具、調理具は、それぞれ出土した石器全体の約30%を占めている。このことを踏まえて第13図をみてみると、狩猟・漁労具のはば100%を石錐が占めている。また、調理具は凹石が約45%、磨(擦)石が約45%を占めており、調理具全体の約90%を占めている。花切遺跡と比べてみると、石皿は28点と多いが砥石は6点と少ない。次に、非実用的石器についてみてみると、祭祀具である石棒は、包含層からの3点にとどまっており、住居跡1棟につき1点以上の出土がみられた土偶とは対照的である。

花切遺跡では、実用的石器の内、擦切具、磨(擦)石、石皿の出土点数は3点以下の出土にとどまり、これとは対照的に、磨製石斧の90点を最多として、打製石斧、凹石、砥石の20点以上の出土がみられた。花切遺跡でも石器の種類が限定されている。第12図では、建築・生産用具が全体の約70%を占め、残りの約30%を調理具が占めている。この内訳を図13からみると、建築・生産用具では磨製石斧が約70%を占め、調理具では凹石が約63%、砥石が約32%を占めており、砥石の出土点数が少ない東黒牧上野遺跡A地区と対照的である。

両遺跡は、石器を限定して持つ点で同じような傾向を示し、種類ごとにみてみると対照的なあり方を示すことが判った。

石棒については、両遺跡ともに住居跡からの出土はみられない。第14図から石棒の出土割合は、両遺跡ともに非実用的石器の70%近くを占めていることがわかる。このことから、出土点数は少いものの、非実用的石器の中では重要な位置を占めていたものと思われる。しかし、土偶1点あたりの石棒の出土点数は、東黒牧上野遺跡A地区では、0.075点、花切遺跡では2点となり特徴的である。この点については、花切遺跡の資料の増加を持って、再検討する必要があるだろう。

次に、石器の用途ごとの出土点数を住居の標高とともにみてみた。その結果、両遺跡ともに実用的石器は多くの住居からの出土が見られた。標高を見てみると、東黒牧上野遺跡A地区では、標高176.8~177.4m付近にある住居跡からの出土が多く、ある程度のまとまりをもって分布しているようである。花切遺跡では、低所にある1号住居に出土が偏るが、住居同士が4m以内に近接していること、標高差が0.3mと小さいことから、標高による差があるとは考えにくい。

以上の点を踏まえて、東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡出土の土製品と石器について簡略にまとめてみたい。

- 1 東黒牧上野遺跡A地区は、住居跡1棟につき1点以上の土偶が出土する。
- 2 石棒の出土点数は、住居跡数からみると花切遺跡に比べ極端に少ないようである。
- 3 石棒の非実用的石器に占める割合は両遺跡とも非常に大きい。
- 4 東黒牧上野遺跡では、490点の石錐が出土している反面、石鎌と石槍の出土点数がそれぞれ1点ずつと少ない。
- 5 花切遺跡では、現在のところ狩猟・漁労具は出土していない。
- 6 花切遺跡からは、敲石や擦切具といった石器製作関連の遺物や打製石斧をはじめとする200点の石器が出土した。
- 7 両遺跡は、所有する石器の種類を限定する傾向にあり、さらに両遺跡の遺物の出土点数には逆転現象がみられる(註2)。

4. 大山町の縄文時代中期住居跡について（写真図版 6）

東黒牧上野遺跡A地区では、平成6年度（1994年度）調査の時点で未発掘の住居跡と考えられている遺構13箇所を含めて35棟の住居跡が、花切遺跡では、昭和62年度（1987年度）調査の時点で4棟の住居跡がそれぞれ確認されている。住居跡の時代は、出土土器から西漢時代中期頃に比定されている。

面遺跡の地形。ここでは、集落が形成される立地条件を地形との関わりの中で考えてみた（第16図）。

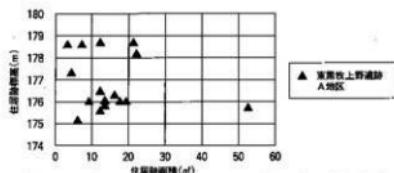
東黒牧上野遺跡の住居跡は、A地区で検出され、1989年度調査地区では15棟、1994年度調査地区では6棟が確認されている。なお、北地区では未調査の住居跡と考えられる遺構が13箇所あり、調査区外にも遺構の存在が予想されており、それらは、住居跡である可能性が高い（第20図）。もし、全てが住居跡だとすれば、25棟以上の住居跡が丘陵から台地状に空き出した緩斜面上に集中していた可能性がある。

住居跡は、標高約170~180mまでの平坦面に造られている。斜面の勾配は、調査区内に設けられたグリッドY=10.0に沿って計測した。その結果、平坦面より低い場所が約19.5°、平坦面が1~3°、平坦面より高い場所が約1°であった(表5)。このことから、東黒牧上野遺跡A地区では、集落の形成に際して平坦面の勾配が1~3°程度の斜面を選択しているといえよう(註3)。しかし、遺跡内の比高差は、約10mあることからといって平坦とはいえない場所に集落が営まれていることが解る。

花切遺跡は、現在のところ富山県内では、最高所の繩文時代の集落であることは先に述べた通りである。第20回からは、花切遺跡が花切西遺跡とともに北西へ広がる可能性が指摘できる。両遺跡は、段丘上に形成された平坦面に沿う形で造られているといえよう。ところで、両遺跡の範囲がより高所に広がるかどうかは、未調査であるため現時点では不明である。花切遺跡の住居跡は、標高約545～550mまでの平坦面に造られている。斜面の勾配は、遺跡内に設けられたグリッドY=20.0に沿って計測した。その結果、平坦面より低い場所が約32°、平坦面が約2°、平坦面より高い場所が約0°であった(表5)。このことから、花切遺跡では、集落の形成に際して平坦面の勾配が約2°程度の斜面を選択しているといえよう。

表5 遺跡の面積と斜面の勾配 単位：°

	上斜面勾配	平坦面勾配	下斜面勾配
東黒牧上野遺跡A地区	1	1~3	19.5
花切遺跡	0	2	32



第15図 東黒牧上野遺跡A地区の住居跡面積と標高

住居跡と標高(第15図) ここでは、東黒牧上野遺跡A地区で完掘された住居跡の遺跡内での分布と住居跡の規模についてみてみる。なお、住居跡の面積が推定値であるものは図中から省いた。

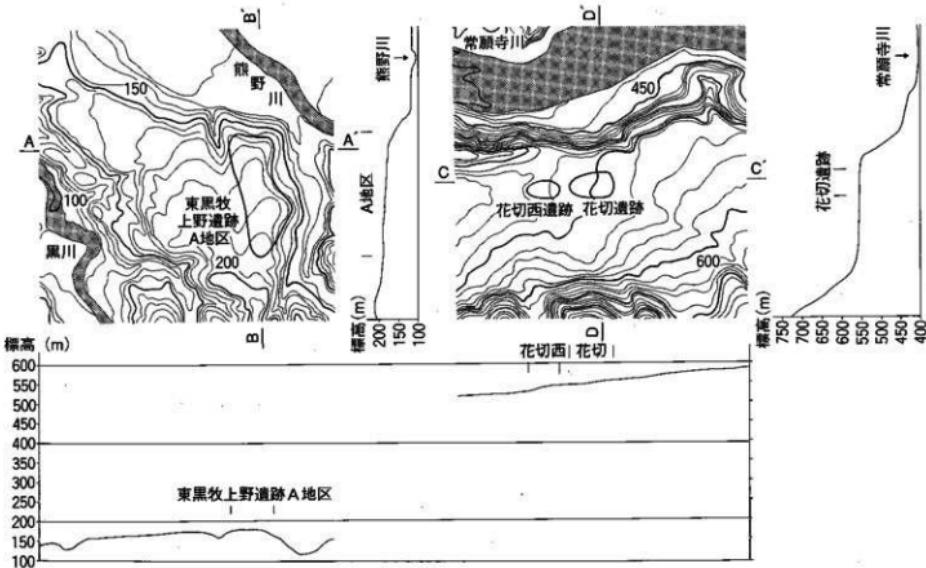
住居跡は、1989年度調査区では床面の標高が177.0m前後に10棟が集中し、1994年度調査区では178.7m前後に4棟が集中している。1989年度調査区の遺構検出面からみると、これらの住居跡は、標高約177.25~177.75mまでの間に造られている。また、住居跡の可能性が指摘されている未調査の遺構13箇所のうち9箇所までが同標高内に造られていることから、住居の配置からみた集落の構造の一端を示すものと思われる。

住居跡の面積では、第17図から 13m^2 以下と 16m^2 以上の2グループに大きく分類できた。 13m^2 以下のグループでは、 $10\sim13\text{m}^2$ に6棟あり、 10m^2 以下に4棟あることからさらに2グループに細分できると考えた。 16m^2 以上のグループでは、1989-1号住居が 53.28m^2 と遺跡内では飛び抜けて大きいため、 $16\sim24\text{m}^2$ までと 24m^2 以上のグループに細分できると考えた。しかし、1遺跡内の分類であり、住居数も少ないと便宜上 10m^2 以下の小規模住居、 $10\sim13\text{m}^2$ の中規模住居、 16m^2 以上の大規模住居の三分類としてみた（表6）。

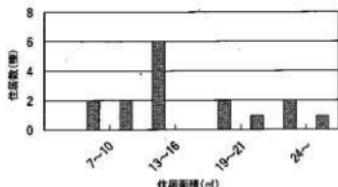
小規模住居跡は、円形3棟を含む7棟がある。その内の1989-15号住居は、1989-11号住居から北に約20m離れている。これは、住居の密集する地点から離れた場所につくられた例といえよう。最も小さい住居は、東黒牧上野遺跡A地区1995-4号住居跡の4m²である。小規模住居跡は、住居跡が密集する地点から比較的離れた場所に造られる傾向にあるようである。

中規模住居跡は、7棟あり全て隅丸方形である。第17図から平面面積は、12m²前後に集まることから住居を造るに際して、何らかの基準があった可能性がある。中規模住居跡は、標高176.5~177.5m、座標X=30、Y=30付近に集まる傾向にある。

大規模住居跡は、第17図から円形と隅丸六角形各1棟を含む計6棟である。その中の東黒牧上野遺跡A地区1989-1号住居跡は、今回扱った住居中最大級の住居跡で約53m²ある。この住居は、1994-2号住居をはじめとする大規模住居跡の2倍以上、最小の住居の4倍の規模をもつ。大規模住居跡は、標高177.0m、座標X=30、Y=20付近に集まる傾向にある。



第16図 東黒牧上野遺跡A地区・花切遺跡の地形選択図（縮尺：1/25,000）



第17図 東黒牧上野遺跡A地区的住居跡面積分布

表6 住居跡平面面積

単位：棟、()内は同一遺跡内に占める割合

遺跡名	住居	小規模 住居	中規模 住居	大規模 住居	合 計
		(10m ² 以下)	(10~13m ²)	(16m ² 以上)	住居数
東黒牧上野遺跡A地区	6 (32)	7 (37)	6 (32)	19	
花切遺跡	1 (33)	1 (33)	1 (33)	3	
合計住居数	7 (32)	8 (36)	7 (32)	22	

平面形と構造 住居跡の平面形と構造についてみてみた（表7）。東黒牧上野遺跡A地区は、隅丸方形が約63%を占める。その内、約58%を中規模住居が占めていることから、同遺跡では、平面形が隅丸方形の中規模住居が中心的な住居であったと考えられる。円形もしくは楕円形の住居跡は、小規模住居と大規模住居とに限られる。小規模住居では約67%を占めている。隅丸六角形は、大規模住居1棟のみである。

花切遺跡は、隅丸方形は中規模住居としたものに1棟ある。方形の住居跡は、小規模住居と大規模住居の各1棟である。東黒牧上野遺跡A地区の小規模住居で主流を占めた円形の住居は、この時点では確認されていない。ところで、表7からは、住居跡の平面形にも出土遺物にみられた逆転現象がみられる。のことからも、平面形の傾向については、花切遺跡の追加報告を待つて再確認する必要があると思われる。

表7 住居跡平面形

単位：棟、（ ）内は同一遺跡内に占める割合

平面形 遺跡名	隅丸 方形	隅丸 六角形	楕円形	方 形	円 形	合 計
東黒牧上野遺跡A地区	12 (63)	1 (5)	2 (11)	0 (0)	4 (21)	19
花切遺跡	1 (33)	0 (0)	0 (0)	2 (67)	0 (0)	3
合計住居数	13 (59)	1 (5)	2 (9)	2 (9)	4 (18)	22

表8 住居跡主柱穴数

単位：棟、（ ）内は同一遺跡内に占める割合

	4本	5本	8本	10本	合計
東黒牧上野遺跡A地区	5 (38)	7 (50)	1 (7)	1 (7)	14
花切遺跡	1 (33)	2 (67)	0 (0)	0 (0)	3
合計	6 (35)	9 (53)	1 (6)	1 (6)	17

表9 住居跡の主柱穴と炉跡計測表

花切遺跡

単位：m

No.	遺構No.	主柱穴本数	柱 間 数 値	合 計	参考値	炉の縦横数値	炉の縦横比率
1	1987-1	6	1.0-1.5-1.0-1.0-1.2-1.6	6.9	1.5-1.2	0.7-0.7	1.0:1
2	1987-2	4	1.5-3.0-推1.5-推3.0	推9.0	推1.5	推0.4-推0.4	1.0:1
3	1987-3	-	-	-	-	1.1-1.0	1.1:1
4	1987-4	5	0.7-0.6-0.4-0.5-0.7	2.9	0.7	0.6-0.5	1.2:1

東黒牧上野遺跡A地区

No.	遺構No.	主柱穴本数	柱 間 数 値	合 計	参考値	炉の縦横数値	炉の縦横比率
5	1989-1	10	1.6-1.7-1.4-1.7-2.0- 1.9-1.6-1.7-1.8-1.2	16.6	1.6-1.7	2.5-1.0	2.5:1
6	1989-2	5	1.5-1.5-1.5-1.5-1.5	7.5	1.5	1.0-0.7	1.4:1
7	1989-3	5	1.5-1.5-1.3-1.1-1.5	6.9	1.5	0.8-0.6	1.3:1
8	1989-4	5	2.0-1.5-2.0-1.5	7.0	2.0-1.5	0.7-0.6	1.1:1
9	1989-5	5	2.0-1.8-1.3-1.5-2.0	8.6	2	0.9-0.5	1.8:1
10	1989-6	5	1.5-1.5-1.3-1.1-1.4	6.8	1.5	0.8-0.6	1.3:1
11	1989-7	6	2.0-1.5-1.3-1.2-1.5	7.5	1.5	0.8-0.6	1.3:1
12	1989-8	4	1.5-1.0-1.5-1.1	5.1	1.5	0.8-0.6	1.3:1
13	1989-9	-	-	-	-	0.7-0.5	1.4:1
14	1989-10	5	2.0-2.0-1.8-1.4-2.0	9.2	2.0	1.1-0.7	1.5:1
15	1989-11	5	2.0-2.0-0.8-0.9-2.0	7.7	2.0	0.9-0.5	1.8:1
16	1989-12	4	1.4-0.8-1.6-0.9	4.7	0.7-0.6	-	1.1:1
17	1989-13	-	-	-	-	-	-
18	1989-14	推4	1.3-1.3-推0.9-1.0	推4.5	1.3	0.6-0.5	1.2:1
19	1989-15	-	-	-	-	0.5-0.5	1.0:1
20	1994-1	-	-	-	-	0.6-0.5	1.2:1
21	1994-2	4	3.0-1.5-2.9-1.6	9.0	3.0-1.5	1.0-0.8	1.2:1
22	1994-3	4	2.0-1.0-2.0-1.1	5.1	2.0-1.0	1.0-0.8	1.2:1
23	1994-4	4	2.5-推1.5-2.5-1.5	8.0	2.5-1.5	1.0-0.8	1.2:1
24	1994-5	-	-	-	-	0.6-0.6	1.0:1
25	1994-6	-	-	-	-	0.7-0.6	1.1:1

柱 住居の構造の内、柱についてみてみる（表8、9）。

東黒牧上野遺跡A地区では、主柱穴数が10本1棟、8本1棟、5本7棟、4本5棟、1本2棟が検出されている。主柱は、5本柱が約50%を占め、次いで4本柱が約40%を占める。ところで、5本柱では、4本柱の正方形に二等辺

三角形が付く住居が3棟、台形の長い辺に二等辺三角形が付く住居が3棟ある（第21図）。4本柱では、正方形の住居が3棟、長方形の住居が5棟あり、柱穴によって囲まれた空間中央部に炉を持っている。

花切遺跡では、主柱穴数が6本1棟、5本2棟が検出されている。5本柱の住居跡は、長方形の長辺に二等辺三角形が付くタイプである（第21図）。

ところで、両遺跡の柱間の計測値に共通する点がみられた。同一住居内で柱間寸法が同寸法や2倍になる例として0.6と1.2mや1・1.5・2・3mの各柱間寸法例があり、なかでも1.5mの柱間を持つ住居跡が8棟みられた。この傾向は、住居を建てるに際して規格性を持っていた可能性が考えられる。

溝など 住居の構造を把握するために住居内の溝などについてみてみる。

東黒牧上野遺跡A地区では、全ての住居跡に周溝や段状のものが造られている。柱穴などに長石を2個並べる1989-1号住居は、遺跡内で最大級の規模を有しており特徴的である（第24図、写真図版6の1）。花切遺跡では、溝などといった施設は現時点ではみられない。

炉と炉の構造 炉と炉の構造についてみてみた。表10の炉跡石組構成で長方形の石としている石の長軸は、40～60cm程度のものを指し、中石としている石は径15～20cm程度のものを指すものとする。

東黒牧上野遺跡A地区的炉跡は、単段単式石組炉が20基、地床炉が2基確認されている。また、内7基には土器の埋設が見られ、1989年度調査区では5基が住居密度の高いX=30、Y=30周辺に集まる。地床炉は、炉の北側隅に埋設土器をもつ1989-14号住居、土器を抜き取ったかのような痕跡状の穴を持つ1989-15号住居があり、両住居跡は小規模住居跡に属する。石組みを持つ炉は、長方形の石を利用するものが約60%程度あり、その隙間を径15cm程度の石で埋めている（表10、第21図）。また、その中でも長方形の石一個で二辺以上を作り、他の辺は中小の石組みによるものが50%を占めている。残りの約40%は中石を利用する。

次に、炉の付属として、土器を埋設したり土器片を敷くものも約半数あることから、特に土器の埋設と石の組方にについてみてみた。長方形の石を利用する炉のうち、60%が土器を埋設しており、中石を利用する炉の内、土器を埋設しているのは、1989-10号住居だけである。このことから長方形の石を利用する炉は、中石を利用する炉に比べ埋設土器を持つものが多いといえる。

花切遺跡の炉跡は、単段単式石組炉が2基あり、内1基には土器の埋設が見られる。これらは全て長方形の石を用いて炉を造る。また、その中で長方形の石一個で二辺以上を作り、他の辺は中小の石組みによるものが約67%を占めている。次に、埋設土器についてみてみる。長方形の石を利用する炉のうち、約33%が土器を埋設している。このことから東黒牧上野遺跡A地区とは逆の結果となった。

住居の平面形の項でも触れたが、表11から両遺跡の炉内の施設にも逆転現象がみられる可能性がある。炉内に土器片を敷き詰める傾向にある花切遺跡、炉内に土器を埋設したり柱穴に配石を行なう東黒牧上野遺跡A地区とそれぞれ特徴的である。なんらかの意図があるものと思われる。

表10 炉跡石組構成

単位：棟、（ ）内は同一遺跡内に占める割合

炉石組方 遺跡名	長方形石一辺と 二辺とし他は中 小石組	長方形石一辺で 二辺以上とし他 は中小石組	長方形石一辺と 中石を組んで一 辺とする	中石で一辺と する	合 計
東黒牧上野遺跡A地区	2 (13)	5 (31)	3 (19)	6 (36)	16
花切遺跡	1 (33)	2 (67)	0 (0)	0 (0)	3
合計	3 (16)	7 (37)	3 (16)	6 (32)	19

表11 住居内、炉内の埋設土器・配石

単位：棟、（ ）内は同一遺跡内に占める割合

炉石組方 遺跡名	炉内 土器	炉内土器 埋 設	炉横土器 埋 設	住居内 配石	合 計
東黒牧上野遺跡A地区	1 (9)	6 (55)	1 (9)	3 (27)	11
花切遺跡	2 (67)	1 (33)	0 (0)	0 (0)	3
合 計	3 (21)	7 (50)	1 (7)	3 (21)	14

炉の平面形 ここでは炉の平面形についてみてみる（表12）。長辺が短辺の1.5倍以上になる炉を長方形、それ以下のものを方形とした。

東黒牧上野遺跡A地区では、円形例が1例だけで、他は方形や隅丸方形や横円形などもあるが基本的に長方形を主体とし、約60%を占めている。炉の石の組み方から見てみると、炉の平面形が方形や隅丸方形や横円形のものは、すべて中石を利用するタイプの炉である。

花切遺跡は、すべて方形である。また、これらの炉の石の組み方は、すべて長方形の石を利用しておらず、東黒牧上野遺跡A地区とは炉の構造が異なる特徴を持っているといえよう。

表12 炉跡平面形

単位：棟、() 内は同一遺跡内に占める割合

平面形 遺跡名	方 形	長方形	隅丸方形	横円形	円 形	合 計
東黒牧上野遺跡A地区	1 (5)	12 (60)	1 (5)	5 (25)	1 (5)	20
花切遺跡	4 (100)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	4
合計	5 (21)	12 (50)	1 (4)	5 (21)	1 (4)	24

炉の面積・縦横の計測値 次に炉の面積と炉の縦横の計測値についてみてみる。第18図から0.50m²以下と0.70m²以上の炉跡とに大きく分けられる。この内、0.50m²以下のグループは、炉跡面積の分布から0.30m²以下の2個と0.30~0.50m²の14個に細分できることから、0.30m²以下のものを小規模、0.30~0.50m²のものを中規模とした。0.70m²以上のグループでは、東黒牧上野遺跡A地区1989-1号住居や花切遺跡1987-3号住居の炉跡は1.00m²を越えるが便宜上大規模のグループに含めることとした。

東黒牧上野遺跡A地区では、最大が1989-1号住居の1.80m²、最小が1989-15号住居の0.25m²である。ところで、本遺跡では、0.40m²位の規模をもつものが約55%、0.70m²位の規模をもつものが約30%を占めている（表13）。炉の石の組み方からみてみると、0.40m²位の規模をもつもの内、長方形の石を利用するものと中石を利用するものは50%ずつある。0.70m²位の規模をもつもの内、長方形の石を利用するものが80%あり、中石を利用するものは20%である。

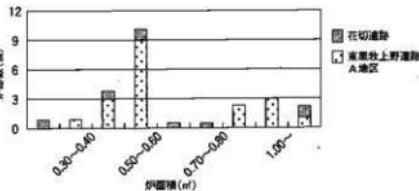
花切遺跡では、最大が1987-3号住居の1.10m²、最小が1987-4号住居の0.30m²である。炉の石の組み方からみてみると、全ての炉跡について長方形の石を利用している。

次に、炉の縦横の計測値では、短軸に対して長軸がほぼ同じか僅かに大きい比率となるものが多く、2倍近くなるものは最大の住居である1989-1号住居の炉を含めて3例ある。また、0.5・0.6・0.8・1.0mの数値が多く見られ、柱間数値と同じ傾向を示す（表9）。

表13 炉跡面積

単位：棟、() 内は同一遺跡内に占める割合

炉跡規模 遺跡名	小規模 (0.30m ² 以下)	中規模 (0.30~0.50m ²)	大規模 (0.80m ² 以上)	合 計
東黒牧上野遺跡A地区	3 (15)	11 (55)	6 (30)	20
花切遺跡	1 (25)	2 (50)	1 (25)	4
合 計	4 (17)	13 (54)	7 (29)	24



第18図 炉跡の面積分布図

表14 大山町花切遺跡・東黒牧上野遺跡A地区の住居跡計測表

花切遺跡

単位：面積(m²)、路面積(m²)、標高(m)

No.	遺構No.	平面形	主柱本数	面 積	炉平面積	炉面積	炉構造	炉石組	標 高	備 考
1	1987-1	圓丸方	6	13.32	方	0.49	単式石組	長石3辺	551.9	埋設土器
2	1987-2	方	4	推21.5	方	推0.16	単式石組	長石	552.2	土器片
3	1987-3	—	—	—	方	1.10	単式石組	長石1辺	551.9	炉内石
4	1987-4	方	5	8.4	方	0.30	単式石組	長石1辺	551.9	土器片

東黒牧上野遺跡A地区

No.	遺構No.	平面形	主柱本数	面 積	炉平面積	炉面積	炉構造	炉石組	標 高	備 考
5	1989-1	横方	10	52.48	長方	1.80	単式石組	長石	176.8	柱穴長石2個、溝、伊内石
6	1989-2	圓丸方	5	12.35	長方	0.70	単式石組	長・大	177.0	埋設、南東角長石4個、段状
7	1989-3	圓丸方	5	11.95	横円	0.48	単式石組	中	176.8	
8	1989-4	圓丸方	5	12.24	横円	0.42	単式石組	中	177.0	対峙の柱穴2辺間溝、段状
9	1989-5	圓丸方	5	17.05	長方	0.45	単式石組	長石3辺	177.2	残1辺大石
10	1989-6	圓丸方	5	9.56	長方	0.48	単式石組	長石3辺	177.0	埋設、残1辺も長石中で埋
11	1989-7	圓丸六	8	18.64	長方	0.48	単式石組	長石3辺	177.0	埋設、残1辺も長石と中、柱穴間溝、段状
12	1989-8	圓丸方	4	11.7	横円	0.48	単式石組	中	177.4	1本柱五角形の可能性
13	1989-9	圓丸方	—	推8	圓丸方	推0.35	単式石組	中	177.4	長石2本
14	1989-10	円	5	19.8	長方	0.77	単式石組	中	177.0	埋設
15	1989-11	圓丸方	5	12.16	横円	0.45	単式石組	長石2側2辺	177.1	埋設
16	1989-12	圓丸方	4	推13.6	長方	0.42	単式石組	長・小石3辺	177.2	横塙かめ
17	1989-13	—	—	—	—	—	—	—	177.4	—
18	1989-14	円	推4	4.84	横円	0.30	単式地床	—	177.3	埋設、溝
19	1989-15	円	—	6.73	円	0.25	単式地床	—	176.2	—
20	1994-1	—	—	—	長方	0.30	単式石組	—	178.1	—
21	1994-2	圓丸方	4	21.62	長方	0.80	単式石組	長石1側2辺	178.2	長石と中2辺、土器片、溝
22	1994-3	圓丸方	4	11.9	長方	0.80	単式石組	—	178.7	—
23	1994-4	圓丸方	4	21.15	長方	0.80	単式石組	長石2辺	178.7	溝
24	1994-5	円	—	4.0	方	0.36	単式石組	中小	178.6	—
25	1994-6	横円	—	7.5	長方	0.42	単式石組	長石1辺	178.6	—

住居の遺跡の中での位置関係や計測結果、出土遺物から判ったことを簡単に述べてみたい。

- 1 遺跡より標高の高い斜面と遺跡のある斜面の傾斜角が2°前後の地形を選択して集落を営むが、遺跡のある斜面より低い斜面の傾斜角には共通点がみられなかった。
- 2 東黒牧上野遺跡A地区の1989年度調査区と1994年度調査区の比高差は、約10mであることから決して平坦ではない場所に営まれている。
- 3 東黒牧上野遺跡A地区では、住居を建てるに際して規模の同じ住居が同一地点にまとまる傾向にある。
- 4 住居跡の平面形は、東黒牧上野遺跡A地区では長方形を主体とし、花切遺跡では方形を主体とする。
- 5 住居跡や炉跡の平面形、土器の埋設や敷布には、東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡との間にても遺物の出土点数にみられた逆転現象が起こっている可能性が指摘できる。
- 6 中規模とした住居跡の平面規模は、11~13m²に集中し、13~17m²付近にはみられないことなどから、10m²以下、11~13m²、17m²以上の3類に分けることができる。
- 7 土器の埋設は、長方形の石を用いているが、うち約60%に上器の埋設がみられ、中石を用いる炉に比べて多い。
- 8 炉跡の平面規模は、0.30m²以下、0.30~0.50m²、0.70m²以上の3類に分けることができる。
- 9 柱間間隔と炉跡の長辺と短辺の計測値は、25~30cmで割ることのできる例が多い。
- 10 長方形の石を用いた炉は、相対する側に用いるものや同規模の石を2個並べるものがあり、規則性があると考えられる。
- 11 炉石の組方は、炉の規模に応じて組方に変化がみられる。

5. 東黒牧上野遺跡A地区の遺物集中区（第19図、写真図版5）

東黒牧上野遺跡G地区の調査期間中にA地区集中区（平成6年度調査区北側）で表面採集調査ができた。その結果、縄文時代の土器片、石器を表探すことができた。多くは縄片であり風化が著しいため、図示に耐えないが、東黒牧上野遺跡A地区をより良く理解するために良好な資料を図示した。

(1)土器

1~15は縄文土器の深鉢である。1、2は、口縁部で、1には口縁部外面に煤が付着している。3~6は胸部破片である。3は、隆帶上にD字状文を施し、D字状文下に半截竹管を刺突する。4は、体部外面にD字状文を施し、棒状工具でなぞり沈線としている。5は、体部外面に無文の隆帶を施し、RLの単節縄文を施す。6は、体部外面に平行沈線を施している。7は、単節撚糸文を施す。8~12は、体部破片で、8はLRの単節縄文を施す。9は、外面にRLの縄文を施すと思われるが、風化が著しいため判別は困難である。10~12は、外面に縄文を施すが、器面が風化しているため縄文原体は不明である。13は、無文の体部破片である。14~15は、底部破片である。これらは、いずれも小破片であるため、時期の比定はむつかしいが、縄文時代中期頃のものと考えられる。

(2)石器

16は、打製石斧の完形品で、形態は短柄形で、石質は砂岩系である。17は、凹石で、石質は砂岩系で、扁平な椎円形の様の両面に4~6箇所の窪みがある。18は、磨(擦)石で、石質は不明だが、多孔質の石を用いている。19は、剥片である。石質は砂岩系である。側面に打割痕があり、自然面が残るため、石頭から剥離したものと考えられる。

6. おわりに

ここまで、特に大山町の縄文時代の集落の様相を解明する際の基礎資料とするために、平野部に近い丘陵上の遺跡として東黒牧上野遺跡A地区を、高所の遺跡として花切遺跡を扱った。ここでは、これまでに明らかになったことを簡単にまとめ、縄文時代中期における両遺跡の性格などを考えてみたい。なお、両遺跡には未調査の部分も多く含まれていること、調査の継続による資料が増加していることなどから、今回はあくまで現時点で判明した特徴を指摘するまでに止めておきたい。

東黒牧上野遺跡からは、40点の土偶が出土しており、これは住居1棟につき1点以上の出土に相当する。小島・神保両氏によると、縄文時代前期のある時期から途絶えていた土偶の生産は、縄文時代中期に入って再び出現し、有脚立像土偶がつくられ、土偶の扱いに変化があったことを指摘している（小島・神保 1992）。富山県内で30点以上の土偶を出土している遺跡には、東黒牧上野遺跡A地区以外では、八尾町長山遺跡の49点、朝日町境A遺跡の50点、富山市古沢遺跡の32点といった縄文時代中~晚期の3遺跡である。また、富山県、石川県、福井県を含めると、縄文時代晩期の石川県野々市町御経塚遺跡の77点のみであり、他の遺跡が数点~十数点にとどまることと、集落としては、縄文時代中期の間で終始することなどから、非常に大量の土偶が出土していることが判る。このことから、東黒牧上野遺跡A地区は土偶を用いた祭祀を盛んに行なった遺跡であるといえよう。

東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡の出土遺物の種類と出土点数には逆転現象がみられた。この逆転現象が遺跡の立地や自然環境によるものかどうかは現時点では不明である。両遺跡の調査面積に対する石器の出土点数は、東黒牧上野遺跡A地区は約0.29点/m²、花切遺跡は約0.77点/m²であり、東黒牧上野遺跡A地区の約2.7倍の出土量があり、石器の生産を行う高所の集落であるといえよう。調理具についてみてみると、両遺跡ともに出土がみられる。狩猟・漁労具についてみてみると、東黒牧上野遺跡A地区からは、490点に及ぶ石錐が出土している。しかし、石錐と石槍は出土していない。花切遺跡からは、現在までのところ石錐、石槍ともに出土していない。このことは、両遺跡の食料獲得の方法と依存していた食料の違いを示すものかも知れない。

また、縄文時代中期には竪穴住居が増加し、関東、北陸、東北南部で特に環状集落が発達することが明らかにされている（武藤 1999）。東黒牧上野遺跡A地区は1989年度と1994年度の調査区をあわせてみてみると住居配置が環状になる可能性があるが、両調査区は約60mほど離れていること、また、住居は拡張ではなく立て替えが大勢を占めることなどから、可能性を指摘するのみで止めておき、今後の調査結果を待ちたい。縄文時代中期の普遍的な村は、3ないし6家族の地縁集団で構成され、住居は重複してつくられており、2棟3小群で構成されるとしている（水野 1969）。東黒牧上野遺跡A遺跡と花切遺跡では、住居面積の計測の結果、縄文時代17m²以上の大規模住居、11~13m²の中規模住居、10m²以下の小規模住居の3類に分けることができた。ここでは、住居面積から家族構成や人口を推測することはさけるが、住居の規模が3類に分かれ、縄文時代中期の住居建設に対する何らかの意識の表れかもしれない。

住居の柱間と炉の縦横の値は、25~30cmで割ることのできるものが多く、この値が住居を造る際の基準となっている可能性があり、藤田氏の指摘する縄文尺がここでもあてはまるかもしれない（藤田 1995）。

集落が営まれた地形についてみてみると、東黒牧上野遺跡A地区では、1989年度調査区と1994年度調査区は直線距離にして約60m離れ、比高差が約10m、遺跡の営まれた斜面の勾配は約1~3°であることが判った。花切遺跡は、調査区も狭く、さらに広がる可能性が指摘できるため現時点では不明としておきたい。縄文時代の集落は、平野部を見下ろす丘陵端部に営まれることはこれまでの集落論の中でも論及されてきた。この点については、東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡も例外ではない。しかし、--見平坦に見える地形も実際には起状に富んでいることは明らかであり、今回はこれを断面図や数値で表してみた。このような方法で集落の形成をみたとき、土器型式、遺物の組成、住居の形態などによって明らかにされてきた成果に加え、新たな視点で考えることができるのではないかと思われる。

縄文時代中期は、気候の温暖化とともに遺跡数が増加した時代である。その中で、北陸地方は、東日本系文化とのつながりを深めた。そのような時代に営まれた集落として、大山町に所在する東黒牧上野遺跡A地区と花切遺跡についてこれまでの調査結果から明らかになったことを述べてきた。その結果、東黒牧上野遺跡A地区は、土偶を用いた祭祀を盛んに行う集落であること、花切遺跡は、石器生産を行う高所の集落であることがそれぞれ明らかになった。しかし、遺跡内には未調査の部分や土器型式の細かな変遷など明らかにできない部分も多いため、この集成が今後、大山町の縄文時代の様相を明らかにする際の基礎的資料となればと思う。

なお、本稿の作成に際しては、岡本淳一郎、斎藤 隆、島田修一、高橋真実（以上、富山県埋蔵文化財センター）、小松博幸、野中由希子（以上、大山町教育委員会）の各氏には、多大なご教授を頂いた。参考図などの作成には、井出靖夫が参加した。末筆ながら記して謝意を表したい。（敬称略　五十音順）（橋本正春・戸賀暢宏）

（註1） 花切遺跡と花切西遺跡は、近接していること、縄文時代中期を中心とした住居跡と出土遺物などの様相が似ているため、同一の遺跡群として考えた。また、これらの調査結果は、本書と期を同じくして報告・刊行される予定である。また、その担当者からは、内容についてなどの教示を得た。

（註2） 出土点数の逆転現象とは、一方の遺跡では出土しているがもう一方からは出土していない、もしくは極端に出土点数に隔たりがあることを示している。

（註3） 表5では、便宜的に次の語を用いた。上斜面勾配とは、遺跡のある斜面から続く、遺跡よりも標高の高い位置にある斜面の傾斜角である。平坦面勾配とは、遺跡が営まれた斜面の傾斜角である。下斜面勾配とは、遺跡のある斜面から続く遺跡よりも標高が低い位置にある斜面の傾斜角である。

VI 参考文献

- 大山町史編纂委員会 1964 『大山町史』 大山町
- 大山町教育委員会 1988 『富山県大山町 花切遺跡発掘調査概要』
- 大山町教育委員会 1989 『大山学園都市建設に係る埋蔵文化財試掘調査報告 東黒牧上野遺跡・東福沢遺跡』
- 大山町教育委員会 1990 『富山県大山町 東黒牧上野遺跡A地区発掘調査概要』
- 大山町教育委員会 1990 『富山県大山町 中世城館調査報告書』
- 大山町教育委員会 1994 『大山町歴史民俗資料館10年のあゆみ』
- 大山町教育委員会 1994 『富山県大山町 一ノ瀬遺跡発掘調査報告書』
- 大山町教育委員会 1995 『町道東黒牧上野山線改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告 東黒牧上野遺跡A地区』
- 久々忠義 1990 「第1章 大山のあけぼの」「大山の歴史」大山町
- 小林康男 1983 「2 組成論」「縄文文化の研究」7 道具と技術 雄山閣 5月4日 P22~27
- 小島俊彰 1972 「縄文中期」「富山県史」 考古編所収
- 小島俊彰・神保孝造 1992 「II 全国の土偶 北陸の土偶」「国立歴史民俗博物館研究報告」第37集 国立歴史民俗博物館 P310~334
- 高堀勝喜 1980 「II 縄文文化の発展と地域別 3 北陸」「日本の考古学」II 縄文時代
- 富山県 1972 『富山県史』考古編 3月31日 P33~47
- 富山県教育委員会 1992 『境A遺跡総括編』「北陸自動車道遺跡調査報告」一朝町編7-1
- 富山県埋蔵文化財センター 1989 『昭和63年度 特別企画展図録 土偶・縄文人のこころ』
- 富山県教育委員会 1985 『富山市古沢遺跡発掘調査概報』
- 野々市町教育委員会 1983 『野々市町御経塚遺跡』
- 林 謙作 1981 「住居面積から判ること」「信濃」第33巻第4号 信濃史学会 p13~27
- 藤田富士夫 1995 「縄文時代の類モノサシについて 一下田遺跡をテーマとしてー」
「飛騨と考古学 飛騨考古学会20周年記念誌」「飛騨考古学会」12月19日
p106~114
- 水野正好 1969 「縄文時代集落研究への基礎的操作」「古代文化」第21巻3・4 財團法人古代學協會
p1~21
- 武藤康弘 1999 「環状集落地域」「季刊考古学」69号 雄山閣 p40~44
- 森 秀雄 1951 『大昔の富山県』清明堂書店 3月10日
- 山本正敏 1986 「北陸の縄文時代前期前葉における磨製石斧の製作」「大境」第10号 p15~24
- 八尾町教育委員会 1985 『富山県八尾町長山遺跡発掘調査報告』
- 吉岡康暢 1984 『石川県下野遺跡の研究」「考古学雑誌」第56巻 第4号

表15 大山町東黒牧上野遺跡A地区出土の遺物計測表

単位：重量(g)、最大長・最大幅・最大厚(cm)

1989-住-01				1989-住-04				1989-住-06				1989-住-07				1989-住-08				1989-住-09					
No	名称	重量	最大長	最大幅	最大厚	No	名称	重量	最大長	最大幅	最大厚	No	名称	重量	最大長	最大幅	最大厚	No	名称	重量	最大長	最大幅	最大厚		
1	石錐	71	6.6	3.5	2.0	3	石錐	182	7.9	5.5	2.7	9	石錐	[41]	[4.1]	4.2	2.0	1	石錐	44	5.0	3.0	1.8		
2	石錐	36	4.2	4.0	1.5	4	石錐	[34]	5.0	3.5	1.5	10	石錐	59	5.4	3.0	2.0	2	石錐	[83]	7.1	4.1	2.0		
3	石錐	[129]	8.5	4.5	2.0	5	石錐	58	4.8	4.0	2.4	11	石錐	[29]	6.1	4.5	2.2	3	石錐	20	4.7	3.1	1.0		
4	石錐	[24]	3.9	4.0	1.7	6	石錐	[66]	5.5	4.0	2.1	12	石錐	85	5.8	4.5	2.3	5	石錐	47	5.5	3.3	1.6		
5	石錐	84	5.0	4.7	1.8	7	石錐	113	8.0	5.3	1.9	13	石錐	22	6.6	4.0	2.1	6	石錐	87	6.5	4.0	2.1		
7	石錐	[35]	3.7	3.4	2.0	8	石錐	113	6.0	5.5	2.2	14	石錐	[48]	[3.5]	[4.2]	2.6	9	石錐	56	5.6	4.3	1.2		
8	石錐	[36]	5.0	3.7	1.6	10	石錐	92	9.5	4.0	1.5	15	石錐	56	5.6	4.3	1.2	11	石錐	23	5.5	3.3	1.0		
9	石錐	102	6.5	4.5	2.4	12	石錐	92	6.0	4.0	2.3	16	石錐	[219]	[11.6]	4.6	2.1	13	石錐	56	5.6	4.3	1.2		
10	石錐	[88]	5.5	3.5	2.2	14	石錐	[61]	4.8	4.8	2.0	17	石錐	[219]	[11.6]	4.6	2.1	15	磨製石斧	[54]	[5.3]	5.0	1.8		
11	石錐	[20]	3.9	2.5	1.4	16	磨製石斧	[151]	[8.7]	4.1	2.2	18	磨製石斧	[20]	[4.9]	1.9	1.1	12	石錐	55	5.5	4.3	1.6		
12	石錐	[61]	5.5	3.8	1.8	17	磨製石斧	[105]	9.0	3.2	1.9	19	磨製石斧	[205]	11.6	5.4	2.0	13	石錐	47	5.5	3.3	1.6		
13	石錐	[53]	4.0	3.7	2.2	20	磨製石斧	[197]	[9.7]	5.1	2.5	20	磨製石斧	[63]	[7.0]	3.6	1.5	14	石錐	19	6.5	4.5	2.2		
14	石錐	[13]	2.5	4.0	1.4	21	磨製石斧	[97]	[6.5]	4.5	1.9	21	磨製石斧	[231]	[11.5]	5.1	2.2	15	石錐	570	18.0	7.3	2.6		
15	石錐	[95]	[4.6]	5.2	2.9	22	磨製石斧	[83]	19.8	9.9	5.2	22	磨製石斧	[110]	3.3	9.6	1.9	16	石錐	570	18.0	7.3	2.6		
16	石錐	95	6.6	4.2	2.5	23	磨製石斧	[151]	15.6	9.0	4.5	2.0	23	磨製石斧	[131]	[8.6]	4.6	2.2	17	石錐	21	6.5	4.5	2.2	
17	石錐	377	9.7	6.5	4.3	24	磨製石斧	[39]	6.3	3.0	1.1	24	磨製石斧	[110]	[7.4]	4.2	1.7	18	石錐	21	6.5	4.5	2.2		
18	石錐	236	8.0	6.1	3.0	25	磨製石斧	[312]	12.3	8.7	3.2	25	磨製石斧	[862]	10.5	8.5	5.3	19	石錐	21	6.5	4.5	2.2		
19	石錐	217	10.1	5.3	2.9	26	磨製石斧	[342]	16.4	6.3	2.8	26	磨製石斧	[515]	9.0	7.9	5.2	20	石錐	509	10.5	7.0	4.2		
20	石錐	[194]	7.7	5.5	2.5	27	磨製石斧	[381]	8.0	7.7	4.5	27	磨製石斧	[570]	13.5	6.8	4.7	21	石錐	1000	15.3	10.9	4.3		
22	石錐	[129]	7.0	5.5	2.4	28	磨製石斧	[227]	6.5	7.5	5.3	28	磨製石斧	[623]	9.8	7.0	5.5	23	石錐	605	9.4	7.5	5.3		
23	石錐	136	8.0	5.0	2.5	29	磨製石斧	[627]	8.5	7.0	6.0	29	磨製石斧	[1140]	13.0	9.0	5.6	24	石錐	85	7.0	6.0	3.0		
24	石錐	[268]	8.3	7.0	3.7	30	石錐	14300	30.0	33.0	6.5	30	石錐	[35]	メノウ石	7	3.2	2.0	0.9	25	石錐	197	7.7	5.5	2.2
26	石錐	51	5.1	3.2	1.7	31	たなき石	[106]	[6.0]	3.5	3.4	31	たなき石	[418]	9.0	7.3	4.5	27	石錐	197	7.7	5.5	2.2		
27	石錐	81	6.8	4.2	1.9	28	石錐	[45]	[5.1]	4.3	2.2	28	石錐	[52]	5.5	3.0	2.0	29	石錐	[138]	7.8	5.6	2.2		
28	石錐	[29]	[9.8]	4.5	1.8	29	石錐	[330]	[12.3]	5.4	2.2	29	石錐	[31]	[5.5]	3.2	1.5	30	石錐	[54]	6.0	3.3	1.8		
30	磨製石斧	[152]	9.8	4.5	1.8	31	磨製石斧	[415]	14.4	6.1	2.1	31	磨製石斧	[41]	5.8	4.7	1.5	32	石錐	[67]	5.5	3.7	2.0		
32	磨製石斧	[83]	[6.4]	5.0	1.8	33	磨製石斧	[35]	[6.2]	[4.0]	1.6	33	磨製石斧	[76]	7.1	4.6	1.3	34	石錐	[76]	7.1	4.6	1.3		
34	磨製石斧	[241]	11.6	5.1	2.0	35	磨製石斧	[196]	10.2	5.3	2.2	35	磨製石斧	[50]	5.0	4.0	2.2	36	石錐	[79]	5.0	4.0	2.2		
35	磨製石斧	[176]	11.1	4.6	1.8	36	磨製石斧	[176]	11.1	4.6	1.8	36	磨製石斧	[6]	5.5	3.8	1.5	37	石錐	[40]	4.0	3.5	1.7		
37	磨製石斧	[5]	[4.0]	[3.2]	[63]	37	磨製石斧	[179]	11.5	4.7	2.0	37	磨製石斧	[17]	[2.5]	[4.5]	[1.2]	38	石錐	[72]	5.5	4.0	2.2		
38	磨製石斧	[136]	[10.7]	5.5	1.8	39	磨製石斧	[105]	10.4	5.5	1.8	39	磨製石斧	[10]	8.0	4.8	2.3	40	石錐	[141]	8.0	4.8	2.3		
40	石錐	1085	1.3	10.4	6.5	41	石錐	162	7.5	5.2	2.9	41	石錐	162	7.5	5.2	2.9	42	石錐	219	8.2	5.8	2.6		
41	石錐	904	11.1	9.2	5.6	42	石錐	[51]	5.6	3.8	1.5	42	石錐	[51]	5.6	3.8	1.5	43	石錐	[103]	6.7	4.3	2.4		
43	石錐	[432]	9.1	7.2	4.6	44	石錐	[14]	5.0	3.5	2.1	44	石錐	[66]	5.5	3.5	2.1	45	石錐	[47]	5.5	4.0	1.4		
45	石錐	690	10.8	10.5	5.0	46	石錐	[175]	10.2	4.5	2.0	46	石錐	[175]	10.2	4.5	2.0	47	石錐	[123]	12.0	4.9	2.3		
47	磨製石斧	[731]	10.1	9.2	5.0	48	磨製石斧	[56]	19	4.5	2.2	48	磨製石斧	[56]	19	4.5	2.2	49	石錐	[219]	8.2	5.8	2.6		
49	磨製石斧	[621]	11.8	7.0	5.5	50	磨製石斧	[489]	[9.8]	[8.0]	2.0	50	磨製石斧	[56]	[6.9]	[4.0]	[1.8]	51	石錐	[74]	[4.5]	4.5	2.3		
51	磨製石斧	[814]	10.5	8.5	6.5	52	磨製石斧	[207]	[11.0]	4.5	2.1	52	磨製石斧	[66]	[5.9]	3.7	1.5	53	石錐	[180]	10.0	4.0	1.8		
53	磨製石斧	[411]	9.0	8.0	4.0	54	磨製石斧	[840]	21.8	6.0	4.0	54	磨製石斧	[136]	10.0	4.0	1.8	55	石錐	[102]	8.2	3.5	1.8		
55	磨製石斧	[539]	10.9	7.0	5.6	56	磨製石斧	[223]	12.0	4.9	2.3	56	磨製石斧	[428]	11.5	8.5	4.8	57	石錐	[329]	7.5	7.8	3.9		
57	磨製石斧	[571]	9.3	7.5	5.6	58	磨製石斧	[74]	495	10.9	8.0	5.3	58	磨製石斧	[91]	[5.0]	5.0	2.5	59	石錐	[727]	10.9	9.7	4.8	
59	磨製石斧	573	11.1	7.7	7.7	60	磨製石斧	[261]	161	7.7	7.6	2.9	60	磨製石斧	[87]	6.8	4.5	1.9	61	石錐	[307]	10.9	9.7	4.8	
61	磨製石斧	522	11.8	7.2	4.6	62	磨製石斧	[207]	138	7.9	4.5	2.6	62	磨製石斧	[126]	8.5	5.0	2.4	63	石錐	[307]	10.9	9.7	4.8	
63	磨製石斧	1184	14.2	10.1	5.7	64	磨製石斧	[136]	102	8.0	4.0	1.8	64	磨製石斧	[82]	7.1	3.7	2.3	65	石錐	[298]	14.1	5.5	2.2	
64	石錐	11	3.8	1.8	1.3	66	磨製石斧	[242]	34	3.2	3.5	0.6	66	磨製石斧	[517]	[14.2]	7.3	3.1	67	石錐	[329]	17.8	7.3	3.1	
67	磨製石斧	[73]	[11.1]	5.5	[1.3]	68	磨製石斧	[35]	2	2.0	2.2	0.3	68	磨製石斧	[166]	[9.5]	4.2	2.1	69	石錐	[35]	3.5	3.5	1.8	
69	磨製石斧	[150]	[10.4]	4.5	1.6	70	磨製石斧	[36]	2	3.5	2.1	0.3	70	磨製石斧	[733]	13.0	9.3	4.3	71	石錐	[775]	13.0	9.3	4.3	
71	磨製石斧	214	10.6	4.9	2.1	72	磨製石斧	[153]	6.5	4.8	3.5	3.5	72	磨製石斧	[974]	13.0	8.8	5.2	73	石錐	[775]	13.0	9.3	4.3	
73	磨製石斧	[402]	[13.5]	5.5	2.3	74	磨製石斧	[775]	77	5.5	4.2	2.1	74	磨製石斧	[7400]	31.6	20.7	9.0	75	石錐	[5400]	23.0	23.8	9.2	
75	磨製石斧	[150]	[10.4]	4.5	1.6	76	磨製石斧	[153]	6.5	4.8	3.5	3.5	76	磨製石斧	[138]	[13.5]	5.5	2.3	77	石錐	[33]	4.5	3.0	1.8	
78	磨製石斧	[158]	[8.8]	5.0	1.7	79	磨製石斧	[153]	23	4.0	2.9	1.3	79	磨製石斧	[2]	10.4	7.5	4.4	80	石錐	[76]	5.5	3.5	2.3	
80	磨製石斧	[402]	[13.5]	5.5	2.3	81	磨製石斧	[153]	37	4.4	3.2	1.8	81	磨製石斧	[4]	10.4	7.5	4.4	82	石錐	[76]	5.5	3.5	2.3	
82	磨製石斧	[150]	[10.4]	4.5	1.6	83	磨製石斧	[153]	50	5.3	4.0	2.0	83	磨製石斧	[3]	10.4	7.5	4.4	84	石錐	[76]	5.5	3.5	2.3	
84	磨製石斧	[158]	[8.8]	5.0	1.7	85	磨製石斧	[153]	52	4.5	4.2	1.3	85	磨製石斧	[3]	10.4	7.5	4.4	86	石錐	[76]	5.5	3.5	2.3	
86	磨製石斧	[153]	5.5	4.5	1.6	87	磨製石斧	[153]	52	4.5	4.2	1.3	87	磨製石斧	[3]	10.4	7.5	4.4	88	石錐	[76]	5.5	3.5	2.3	
88	磨製石斧	[153]	5.5	4.5	1.6	89	磨製石斧	[153]	57	4.5	4.2	1.3	89	磨製石斧	[3]	10.4	7.5	4.4	90	石錐	[76]	5.5	3.5	2.3	
90	磨製石斧	[153]	5.5	4.5	1.6	91	磨製石斧	[153]	57	4.5	4.2	1.3	91	磨製石斧	[3]	10.4	7.5	4.4	92	石錐	[76]	5.5	3.5	2.3	
92	磨製石斧	[153]	5.5	4.5	1.6	93	磨製石斧	[153]	57	4.5	4.2	1.3	93	磨製石斧	[3]	10.4	7.5	4.4	94	石錐	[76]	5.5	3.5	2.3</	

1989-住-長				
No	名称	重量	最大長	最大幅
5	四石	444	10.5	7.0
6	四石	649	11.7	8.3
7	磨石	766	9.9	8.0
8	合石	4200	28.3	13.6
1989-住-大				
No	名称	重量	最大長	最大厚
1	石鑿	95	6.7	4.5
2	石鑿	[34]	[28]	[45]
3	石鑿	63	4.8	4.0
4	石鑿	269	9.1	5.6
5	石鑿	39	3.7	3.3
6	石鑿	[58]	5.0	4.2
7	石鑿	[27]	6.0	3.5
8	石鑿	[27]	5.0	2.4
9	石鑿	[32]	4.9	3.3
10	磨製石斧	122	8.8	4.5
11	磨製石斧	[659]	[62.0]	7.5
12	磨製石斧	[86]	[5.8]	4.2
13	石鑿	1	2.5	1.5
14	凹石	655	10.1	8.4
15	凹石	332	11.1	4.7
16	凹石	590	10.3	9.0
17	磨石	721	10.4	7.8
18	擦石	[305]	[9.0]	6.9
19	その他	142	7.1	5.0
1989-住-12				
No	名称	重量	最大長	最大幅
1	斧頭			
2	磨製石斧	[168]	9.4	4.5
3	磨製石斧	[130]	8.3	4.6
4	磨製石斧	291	10.8	5.6
5	剥片	8	3.6	2.6
6	擦石	972	14.6	7.2
1989-住-13				
No	名称	重量	最大長	最大幅
1	石鑿	168	9.4	5.4
2	磨製石斧	[294]	[12.2]	5.5
3	磨製石斧	417	13.2	6.0
4	擦石	703	10.0	8.0
1989-住-13				
No	名称	重量	最大長	最大幅
1	石鑿	[75]	6.4	4.5
2	磨製石斧	[254]	11.2	5.0

石種	No	出土区	重量	長軸長	短軸長	厚さ
	1	12-21	224	8.9	5.8	2.8
	2	13-23	80	5.9	4.3	2.2
	3	14-18	60	6.5	3.3	2.1
	4	14-18	109	6.8	5.4	2.7
	5	14-20	131	6.6	5.5	2.9
	6	14-20	91	5.6	4.4	2.5
	7	14-20	67	5.5	4.9	2.0
	8	14-20	120	9.3	4.3	2.0
	9	14-22	33	5.1	3.5	1.3
	10	15-17	65	6.5	3.6	1.8
	11	15-17	77	7.6	3.6	2.1
	12	15-19	119	8.0	4.1	2.5
	13	15-20	25	4.0	2.5	1.8
	14	15-23	139	5.9	5.4	2.9
	15	16-11	[35]	[5.0]	3.8	1.5
	16	16-14	16	3.8	6.6	1.9
	17	16-15	56	6.2	5.3	1.5
	18	17-11	68	5.4	2.7	1.8
	19	17-13	190	8.4	5.3	2.7
	20	17-14	207	10.0	5.0	2.8
	21	17-15	90	5.5	4.3	2.8
	22	17-15	55	4.5	3.5	2.2
	23	17-15	56	5.3	4.8	1.8
	24	16-11	[20]	[3.7]	3.9	1.5
	25	16-13	67	4.5	4.0	2.4
	26	18-13	91	5.8	4.5	2.7
	27	19-12	36	3.9	4.0	1.7
	28	19-12	45	6.0	3.4	2.1
	29	19-12	25	3.8	3.1	1.6
	30	19-12	94	6.9	4.4	2.2
	31	19-12	63	4.5	4.2	2.3
	32	19-12	84	6.2	3.8	2.2
	33	19-13	27	4.5	2.0	1.5
	34	19-15	49	6.2	3.3	2.1
	35					
	36	19-15	35	5.4	3.0	1.5
	37	19-15	[27]	[4.2]	4.6	[1.0]
	38	19-15	43	4.5	3.3	1.9
	39	20-12	87	5.9	3.9	2.5
	40	20-13	31	3.9	3.4	1.7
	41					
	42	81	5.3	4.8	2.3	
	43		70	6.7	4.4	1.6
	44		37	5.1	4.0	1.7
	45		73	7.1	3.7	2.0
	46	15-16	61	5.6	4.0	1.8
	47	16-17	72	5.4	4.6	2.0
	48		82	7.0	3.7	2.1
	49					
	49	15-18	196	7.3	5.8	3.1
	50	15-18	136	8.4	4.8	2.1
	51	15-21	31	4.4	3.2	1.5
	52					
	53	17-18	48	4.9	4.0	1.6
	54	17-18	138	7.5	5.3	2.8
	55	17-18	95	6.2	4.0	2.6
	56	17-19	30	5.1	3.3	1.2
	57	17-20	43	5.0	4.5	1.3
	58	17-20	90	5.8	5.0	2.4
	59	17-20	76	5.5	4.8	2.4
	60	18-16	52	5.3	4.5	2.0
	61	18-16	65	5.5	4.4	1.7
	62	18-17	69	5.7	4.4	2.0
	63	18-19	62	5.0	4.4	2.1
	64	19-19	108	5.5	5.2	2.9
	65	18-19	[78]	6.6	4.1	2.0
	66	19-20	38	4.0	3.8	1.8
	67	20-12	77	7.5	4.0	1.9
	68					
	69	20-18	35	4.5	3.5	1.7
	70	20-19	66	4.8	4.6	2.4
	71	20-21-19	103	6.0	6.0	2.4
	72	20-20	129	6.5	5.0	2.4
	73	20-20	28	5.7	3.5	1.1
	74	20-20	[60]	6.5	4.0	1.8
	75	20-21-19	52	5.5	4.0	1.7
	76	20-21-19	51	5.5	3.5	1.6
	77	20-21-19	51	4.5	4.3	1.6

78	20-21-19	74	54	4.5	24
79	19-19	85	68	5.0	23
80	16-30	300	87	6.4	39
81	17-23	[60]	52	4.0	23
82	19-23	61	54	4.5	20
83	20-21	50	53	3.2	20
84	20-26	55	65	3.4	20
85	21-11	41	52	4.2	15
86	21-11	37	50	3.0	19
87	21-12	61	51	4.5	23
88	22-12	103	65	4.5	26
89	23-13	42	51	3.3	18
90	23-13	38	60	3.4	13
91	23-11	171	73	6.0	29
92	23-12	95	69	4.2	20
93	23-14	76	51	4.0	22
94	23-14	84	70	4.6	20
95	23-14	91	51	4.5	29
96	23-14	203	95	5.5	27
97	23-14	67	60	4.2	22
98	99				
100	24-11	72	64	3.7	21
101	24-12	43	55	3.4	17
102	25-14	76	70	4.0	22
103	21-16	[25]	[44]	4.5	[10]
104	21-16	76	62	3.5	25
105	21-17	225	86	5.8	36
106	22-16,17	272	100	5.9	34
107	22-18	45	44	4.0	18
108	22-18	25	38	3.0	16
109	22-18	75	50	4.2	25
110	22-19	80	63	4.2	21
111	22-19	56	66	4.5	15
112	22-19	223	103	4.4	33
113	22-19	49	55	3.4	17
114	23-16	46	4.7	3.3	19
115	23-16	28	60	2.5	15
116	23-19	51	59	4.8	18
117	23-19	25	39	3.3	13
118	23-19	31	44	3.5	17
119	20-25	70	55	4.9	19
120	21-20	64	54	3.8	20
121	21-33	87	65	4.2	22
122	21-33	52	42	3.6	19
123	21-24	39	56	3.5	15
124					
125	22-21	54	48	3.9	21
126	23-21	141	82	5.7	23
127	23-23	83	59	5.5	20
128	23-23	60	55	4.1	16
129	23-26	81	56	4.1	25
130	26-21	38	44	3.5	20
131	26-27	220	100	4.8	35
132	26-27	36	45	3.0	18
133	27-15	64	60	4.3	21
134	27-17	20	35	3.0	15
135	27-23	42	40	3.5	21
136	27-33	58	55	3.5	18
137	27-34	41	52	3.2	18
138	28-23	81	82	5.1	19
139	28-23	53	51	3.6	15
140	28-33	[125]	[55]	6.6	29
141	29-26	69	55	4.4	19
142	29-28	69	65	4.0	19
143					
144	29-30	30	35	3.5	17
145	29-33	80	65	4.5	18
146	30-13	31	60	3.2	13
147	30-20	60	48	4.2	22
148	30-22	109	75	4.2	22
149	30-22	95	55	4.7	25
150	30-25	143	75	5.0	24
151	30-25	56	50	3.5	20
152	30-25	39	52	2.8	18
153					
154	30-31	50	49	4.0	18
155	30-33	85	64	4.2	25
156	30-33	71	60	4.5	20
157	30-34	31	42	3.5	15

158	30-34	172	7.8	5.5	3.4	238	34-30	66	6.0	4.3	1.9	315	38-35	[53]	5.0	4.6	1.8
159	31-16	45	5.0	4.2	1.6	239	35-27	41	6.0	3.2	1.3	319	39-30	133	8.0	5.5	2.3
160	31-30	191	8.2	5.5	3.0	240	35-28	125	9.1	4.6	2.0	320	39-31	18	4.7	2.2	1.2
161	32-11	38	5.0	3.2	1.6	241	35-29	170	8.5	5.1	2.8	321	39-32	35	4.8	3.1	1.4
162	32-20	22	4.3	2.7	1.3	242	35-30	50	4.8	4.2	2.0	322	40-30	[55]	[4.6]	3.0	2.2
163	33-20	34	4.2	3.1	1.7	243	31-31	68	5.0	4.5	2.3	323	40-31	71	5.4	4.3	2.4
164						244	31-31	211	7.9	5.5	3.3	324	40-34-35	30	2.5	2.5	1.7
165	34-11	77	5.0	4.0	2.6	245	31-39-34	120	6.3	5.6	2.1	325	41-14	50	5.5	3.7	1.8
166						246	31-32-31-34	50	4.9	4.2	1.6	327	41-27	[47]	[3.9]	4.4	1.7
167	34-18	52	4.5	3.8	2.3	247	31-32-34	85	5.5	4.2	2.4	328	41-42-28-29	40	5.4	3.0	1.6
168	34-18	26	4.8	3.0	1.2	248	31-32-34	97	7.0	5.0	2.3	329	41-42-28-29	90	6.0	5.0	2.2
169	34-19	109	6.5	5.0	2.7	249	31-33	[56]	[5.5]	5.0	2.6	330	41-30-31	61	5.4	4.0	1.8
170	34-20	28	4.3	3.0	2.1	250	31-34	42	4.5	3.7	2.0	331	42-28	43	4.8	3.5	1.6
171	35-13	85	6.5	4.1	2.1	251	31-34	217	8.5	5.9	3.0	332	42-31	69	5.7	4.2	1.9
172	35-16	120	6.2	5.3	2.5	252	33-31	[57]	[7.4]	82	2.2	333	43-11	287	8.6	6.5	3.5
173	35-17	121	7.0	4.0	2.7	253	33-34	149	7.6	5.0	2.4	334	43-11	44	4.6	3.8	1.8
174	35-17	37	4.0	3.5	2.0	254	33-34	50	6.8	3.9	1.5	335	43-18	43	4.9	3.5	1.9
175	35-18	176	7.8	6.0	3.1	255	33-34	31	4.3	3.3	1.4	336	43-19	50	5.3	5.1	1.4
176	35-21	39	4.0	4.0	1.8	256						337	43-28	104	6.5	4.5	2.4
177	35-21	100	7.5	4.5	1.8	257						338	43-28	96	5.0	3.4	2.4
178	35-21	55	5.9	4.5	1.5	258	34-31	110	7.0	5.1	2.0	339	43-33	104	6.0	4.5	2.4
179	35-21	94	5.9	5.0	2.0	259	34-32	201	7.5	6.1	3.1	340	44-22	108	7.2	5.3	1.8
180	35-21	68	6.4	3.5	1.9	260	34-32	34	5.2	2.7	1.3	341	44-22	211	6.9	5.0	3.4
181	35-21	71	6.5	4.2	1.8	261	34-34	211	8.0	5.5	3.5	342	45-26	125	6.6	5.1	2.4
182	35-21	43	4.5	4.0	1.8	262	34-34	21	4.1	3.3	1.2	343	45-30	149	7.6	5.0	2.9
183	35-21	31	4.0	3.3	1.9	263	34-34	[23]	[3.9]	3.4	1.7	344	46-25	55	5.9	3.0	2.1
184	35-21	29	4.0	3.0	1.8	264	35-31	123	7.9	4.8	2.2	345	46-13	135	7.7	4.9	2.7
185	35-21	71	6.1	4.0	1.9	265	35-45	93	5.7	4.7	2.4	346	46-28	97	6.2	4.3	2.3
186	35-21	130	8.5	5.0	2.2	266	36-17	87	6.2	4.5	2.1	347	46-28	53	5.2	4.0	1.6
187	35-21	74	6.3	3.9	1.9	267	36-18	118	6.5	4.8	2.6	348	47-25	39	4.6	3.5	1.9
188						268						349					
189	35-21	109	7.9	3.6	2.5	269	36-24	65	5.0	3.5	1.2	350	49-23	68	5.2	4.0	1.7
190	35-21	63	4.3	4.4	2.4	270	36-24	[25]	4.5	3.5	1.1	351	246	10.1	5.8	3.0	
191	35-21	86	6.3	4.0	2.1	271	35-24	41	4.6	3.5	1.6	352		51	4.8	3.6	2.2
192	35-21	69	5.2	4.2	2.1	272	36-25	62	5.4	3.2	2.1	353		191	8.2	5.0	2.8
193	35-21	49	6.5	3.3	1.9	273	36-29	74	6.9	4.5	1.5	354		44	5.5	3.5	1.6
194	35-21	159	7.3	5.0	2.8	274	36-29	50	5.3	3.2	2.0	355		25	4.0	3.0	1.5
195	35-21	75	5.9	4.3	2.0	275						356		44	4.6	3.5	1.7
196	35-21	79	5.5	4.5	2.3	276	36-37-31-22	[44]	[3.5]	4.8	2.5	357		111	6.3	5.0	2.4
197	35-21	78	5.6	4.5	2.1	277	37-18	21	3.7	3.1	1.4	358		113	7.7	4.6	2.3
198	35-21	113	6.5	4.0	2.6	278	37-21-22	[16]	[4.0]	3.3	1.3	359		385	9.1	7.2	4.1
199	35-21	42	4.3	3.7	2.0	279						360		56	5.0	3.6	2.0
200	35-21	170	7.2	5.0	3.2	280	37-23	79	7.4	4.0	1.8	361		37	5.1	2.6	1.7
201	35-21	65	6.1	3.7	2.0	281	37-24	82	6.9	4.0	1.9	362		47	5.3	3.0	1.8
202	35-21	30	5.1	3.1	1.5	282	37-24	94	5.1	4.0	2.6	363		291	9.5	7.0	2.8
203	35-21	113	6.2	4.3	2.6	283	37-24-25	149	6.3	5.2	2.9	364		53	5.7	3.5	2.0
204	35-21	74	6.5	4.1	1.9	284	37-24-25	34	4.1	3.3	2.1	365		43	6.0	3.5	1.1
205	35-25	125	7.3	5.2	2.3	285	37-29	156	6.5	5.7	2.8	366		59	5.1	3.4	2.2
206	34-20	29	3.8	3.8	1.8	286	37-33	[18]	[2.0]	4.5	1.7	367		66	5.3	4.4	2.2
207	34-22	33	4.1	4.0	1.6	287	37-17	76	5.8	5.4	2.0	368		202	8.5	5.4	3.1
208						288	38-20	66	5.1	3.3	2.5	369		65	4.7	4.5	2.3
209	35-22	64	5.5	5.0	1.7	289	38-21	[50]	[6.5]	4.0	1.5	370		21	4.0	3.2	1.6
210	35-22	70	5.6	5.0	2.0	290	38-21	[53]	[5.0]	4.1	2.0	371		47	5.5	3.5	1.5
211	31-26	[26]	[3.3]	3.5	2.0	291	38-27	50	6.1	3.5	1.7	372		52	5.2	3.4	2.0
212	31-26	[58]	7.2	[3.5]	2.0	292	38-29	37	5.8	3.1	1.8	373		66	7.5	3.4	2.4
213	31-26	55	4.5	4.5	1.8	293	38-29	51	6.5	3.0	1.7	374		59	5.2	4.0	1.7
214	31-26	147	7.8	5.3	2.2	294	39-22	103	6.5	5.2	2.1	375		143	6.5	5.0	2.9
215	31-26	74	7.8	4.8	1.4	295	36-31	[164]	[7.8]	6.0	2.6	376		52	4.8	3.8	1.9
216						296	37-30	114	6.9	5.4	2.2	377		31	3.7	3.5	1.8
217	31-27	84	6.1	5.0	1.8	297	37-30	77	7.0	3.9	2.5	378		42	5.9	3.7	1.8
218	31-28	142	7.7	5.3	2.5	298	37-30	173	9.6	6.3	2.7	379		81	5.8	3.9	2.3
219	32-26	118	5.9	5.0	2.7	299	37-30	87	6.8	3.5	2.1	380		79	6.2	4.2	2.0
220	32-27	91	6.3	5.4	2.2	300	37-30	92	6.3	5.1	2.0	381		115	6.7	4.7	2.4
221	32-27	70	5.2	4.3	1.9	301	37-30	67	5.9	4.7	2.1	382		43	4.1	3.9	2.5
222	32-28	[99]	[6.5]	5.2	2.2	302	37-30	69	6.5	4.4	1.9	383		89	5.5	4.5	2.3
223	32-28	59	5.3	3.7	2.3	303	37-30	76	7.6	3.5	1.8	384		29	5.0	2.7	1.5
224	33-25,26	83	7.3	4.1	2.0	304	37-31	[59]	[5.1]	4.8	1.7	385		38	5.8	3.5	1.6
225	33-25	68	5.4	5.0	1.8	305	37-31	43	5.6	4.2	1.5	386		52	5.2	3.5	3.6
226	33-26	41	4.4	3.2	1.8	306	37-31	66	6.5	4.0	2.3	387		33	4.8	3.0	1.5
227	33-35-28,29	[59]	[6.4]	4.6	1.6	307	37-32	[6]	5.2	4.2	1.9	388		32	3.5	3.2	2.1
228	33-28	103	8.3	4.0	2.1	308	37-33	192	8.3	5.5	3.0	389		96	6.1	5.2	2.2
229	33-28	95	6.1	4.0	2.7	309	37-35	[20]	4.5	3.6	[1.1]	390		58	6.1	3.2	1.9
230	33-30	[50]	6.6	5.0	[1.1]	310	37-35	73	6.2	3.3	1.9	391		49	5.3	3.5	1.7
231	33-30	168	8.3	5.0	2.6	311	38-33	22	4.2	2.5	1.3	392		[41]	4.9	3.0	2.0
232	34-26	60	5.0	3.5	2.6	312	38-33	58	4.4	3.7	2.6	393		22	5.2	3.2	1.0
233	34-26	163	7.9	5.1	3.0	313	38-33	[46]	[5.2]	4.6	1.8	394		98	7.2	5.2	1.8
234	34-28	87	6.7	4.5	1.9	314	38-33	114	7.0	5.0	2.4	395					
235	34-28	210	8.5	5.0	2.9	315	38-33	62	5.5	3.5	2.3	396	34-20	250	8.2	6.2	3.5
236	34-29	96	5.9	5.2	2.3	316											
237	34-30	28	4.0	3.2	1.6	317	38-35	117	7.6	4.5	2.3						

珊瑚石斧		No	出土区	重量	最大長	最大幅	最大厚	No	出土区	重量	最大長	最大幅	最大厚
1	12-19	[132]	[5.5]	5.5	3.1			78	31-28	[226]	12.2	5.0	2.5
2								79	31-31	[99]	[7.5]	3.5	1.8
3	14-19	[160]	[7.5]	5.3	2.1			80	31-34	[26]	4.8	3.4	1.5
4	14-22	[466]	[5.3]	6.2	2.3			81	31-34	[41]	[7.1]	[3.6]	1.4
5	15-21	[191]	[6.6]	6.4	2.6			82	32-22	[154]	11.5	4.5	1.8
6	15-25	[156]	[8.2]	5.9	2.3			83	33-28	[205]	[9.7]	5.7	1.8
7	16-11	[48]	6.1	4.0	1.3			84					
8	16-16	[171]	[9.8]	4.1	2.0			85					
9								86	34-27	[150]	9.0	4.1	2.1
10	16-18	[199]	[9.9]	4.2	2.0			87	34-30	[15]	[4.5]	[3.7]	[0.8]
11	16-18	[169]	9.7	5.0	1.8			88	34-30	[17]	[4.0]	3.8	0.9
12	16-19	[21]	4.3	3.2	0.9			89	34-30	[16]	[12.2]	[3.5]	[1.2]
13	16-19	[209]	8.5	5.8	2.3			90	34-31	[208]	9.0	5.6	2.2
14	16-21	[216]	9.6	5.4	2.3			91	34-32~34	[79]	7.2	3.9	1.9
15	17-15	[127]	[6.3]	5.7	[2.7]			92	34-34	[97]	9.8	3.5	1.7
16	17-17	[99]	[6.0]	4.7	1.9			93	35-26	[57]	[4.8]	[4.8]	1.5
17	17-17	[70]	[5.9]	[4.6]	[1.7]			94	35-29	[147]	9.0	4.5	2.0
18	18-15	[52]	[4.5]	4.2	2.0			95	35-31	[69]	[5.3]	[5.3]	1.9
19	18-19	[161]	9.6	4.6	1.8			96	35-31	[302]	12.5	5.0	2.4
20	18-20	[288]	12.1	5.1	2.4			97	31-32~34	[197]	10.2	5.1	2.0
21	18-20	[102]	[7.5]	4.3	2.1			98	36-16	[103]	[7.0]	4.5	1.7
22	19-14	[21]	9.5	3.5	1.8			99	37-31	[35]	[3.5]	[4.7]	[1.5]
23	19-14	[133]	[4.8]	5.6	2.6			100	37-32	[208]	8.1	5.4	2.9
24	19-17	[426]	14.0	6.5	2.7			101	37-21	[122]	[7.6]	4.8	2.0
25								102	37-22	[202]	10.3	5.4	2.2
26	19-22	[119]	[9.3]	4.0	1.8			103	37-23~24	[197]	[10.4]	4.8	2.0
27	20-21-11.12	[44]						104	38-13	[26]	5.0	3.3	1.2
28	26-19	[129]	[7.2]	5.2	2.3			105	38-20	[73]	6.6	3.9	1.7
29	20-20	[55]	[5.0]	4.0	1.7			106	38-20	[149]	8.6	5.2	1.8
30	20-21	[133]	9.1	4.4	2.1			107	38-25	[180]	8.0	5.5	2.6
31	20-23	[161]	[9.5]	4.8	2.0			108	39-25	[151]	10.2	3.6	1.9
32	22-13	[23]	[5.0]	3.0	1.9			109	40-11	[159]	10.6	4.0	2.1
33	22-13	[59]	[4.1]	[5.5]	1.7			110	39-32	[184]	[6.0]	2.2	0.9
34	23-12	[337]	[11.0]	5.7	2.5			111	41-16	[71]	[6.5]	[4.2]	1.9
35	22-17	[170]	8.9	4.2	2.2			112	41-29	[11]	[3.8]	[3.6]	[0.9]
36	23-16	8						113	37-31	[109]	7.0	4.5	1.8
37	22-16	[207]	[10.0]	4.9	2.1			114	37-33	[160]	8.8	5.0	1.8
38	21-23	[176]	9.2	5.3	2.0			115	38-27	[166]	8.2	4.5	2.2
39	21-23	21	4.7	3.9	0.9			116	38-28	[183]	5.2	4.6	2.0
40	22-19	[209]	10.5	4.9	2.1			117	38-28	[151]	10.2	3.6	1.9
41	25-18	[147]	[7.6]	4.7	2.2			118	39-32	[184]	[7.9]	5.7	2.3
42	22-27	[290]	11.6	5.5	2.8			119	41-16	[47]	[3.5]	[5.2]	[2.1]
43	24-21	[106]	[6.4]	4.5	2.0			120	41-22	[87]	6.0	5.2	3.1
44								121	41-29	[11]	[3.8]	[3.6]	[0.9]
45	26-26	[122]	9.0	4.2	1.8			122	42-24	[310]	[11.8]	5.5	2.4
46	26-26	[240]	10.2	5.8	2.3			123	45-19	[168]	8.9	5.2	2.2
47	26-26	[265]	[10.1]	6.8	2.3			124	48-18	[168]	[5.0]	[3.0]	[2.0]
48	26-28	[227]	[9.8]	5.8	1.6			125		[71]	[6.5]	[5.4]	[2.2]
49	26-28	[246]	11.3	5.3	2.1			126		[168]	8.9	5.2	2.2
50	27-34	[204]	10.5	5.5	2.0			127	39-34	[332]	13.1	6.7	2.2
51	25-25	228	8.5	5.4	2.2			128					
52	25-25	[245]	[8.0]	5.5	2.2			129					
53	29-33	[218]	9.5	5.0	2.4			130					
54	30-29	[22]	[4.6]	[5.3]	[1.1]			131	11-22	[294]	[8.9]	5.5	2.5
55	30-29	[22]	[5.0]	[3.2]	[0.9]			132	14-21	[210]	[10.5]	6.5	2.2
56	30-34	[205]	8.9	6.2	3.0			133	14-25	[164]	[8.4]	7.6	1.7
57	31-11	[41]	[5.0]	3.5	1.6			134	14-25	[78]	6.7	4.3	2.2
58	31-21	[157]	[10.2]	4.5	2.0			135	16-19	[161]	[9.8]	4.6	1.8
59	31-23	[137]	[7.8]	4.9	2.0			136	16-19	[90]	10.4	4.6	1.6
60	33-20	[188]	9.8	4.5	2.0			137	19-21	[168]	[8.9]	7.1	2.3
61	33-26	[37]	[5.1]	3.0	1.3			138	21-11	[302]	[10.5]	8.2	2.8
62	33-26	[227]	[10.5]	5.3	2.3			139	21-26	[146]	10.5	6.5	2.0
63	34-19	[18]	[2.7]	3.5	1.2			140	21-26	[290]	13.4	7.5	2.3
64	34-21	366	11.2	6.6	3.5			141	21-26	[215]	[11.0]	6.2	2.7
65	34-21	[82]	8.5	4.6	1.6			142	21-26	[178]	[6.8]	8.7	2.5
66	34-22	[258]	11.0	5.3	2.2			143	30-34	[132]	11.9	5.0	2.1
67	34-23	[133]	[8.1]	4.2	1.7			144	30-34	[84]	12.0	5.5	0.8
68	34-25	[331]	[10.0]	5.9	2.7			145	31-16	[169]	[7.6]	[7.6]	2.4
69	35-16	[97]	[4.5]	4.6	2.2			146	31-16	[169]	[7.6]	[7.6]	2.4
70	35-18	[179]	[6.5]	5.9	2.4			147	33-26	[84]	10.2	4.9	1.6
71	35-18	[321]	[11.0]	6.8	2.8			148	34-12	[88]	[4.5]	[6.1]	2.4
72								149	34-29	[52]	7.9	3.5	1.4
73	35-22	[56]	[3.7]	[5.3]	[1.9]			150	20-31	[131]	12.6	7.0	1.6
74	35-23	[132]	[5.1]	[4.8]	[2.7]			151	20-31	[129]	12.9	7.0	1.6
75	35-26	[265]	12.0	5.5	2.2			152	20-31	[120]	12.9	7.0	2.3
76	36-28	[87]	7.6	4.3	1.6			153	20-37-31	[223]	[12.0]	7.9	2.0
77	31-27	[382]	15.7	6.2	2.8			154	27-18	[276]	[11.7]	9.0	2.3
								155	27-21-22	[231]	[9.7]	5.8	2.6
								156	28-33				
								157	28-33				
								158	28-33				
								159	28-33				
								160	28-33				
								161	28-33				
								162	28-33				
								163	28-33				
								164	28-33				
								165	28-33				
								166	28-33				
								167	28-33				
								168	28-33				
								169	28-33				
								170	28-33				
								171	28-33				
								172	28-33				
								173	28-33				
								174	28-33				
								175	28-33				
								176	28-33				
								177	28-33				
								178	28-33				
								179	28-33				
								180	28-33				
								181	28-33				
								182	28-33				
								183	28-33				
								184	28-33				
								185	28-33				
								186	28-33				
								187	28-33				
								188	28-33				
								189	28-33				
								190	28-33				
								191	28-33				
								192	28-33				
								193	28-33				
								194	28-33				
								195	28-33				
								196	28-33				
								197	28-33				
								198	28-33				
								199	28-33				
								200	28-33				
								201	28-33				
								202	28-33				
								203	28-33				
								204	28-33				
								205	28-33				
								206	28-33				

56	35-17	650	10.5	8.5	4.7	11	16-15	500	8.5	8.0	5.2	91	33-24-28	480	12.8	8.0	3.7
57	32-21	450	9.0	6.6	5.5	12	16-15	500	8.0	7.0	5.5	92	34-28	[350]	8.5	8.4	4.1
58	35-21	450	9.0	7.9	5.0	13	15-15	750	11.2	8.2	6.0	93	34-30	500	10.2	7.6	4.5
59	31-26	450	8.5	8.2	4.4	14	17-14	320	9.0	6.5	4.2	94	34-30	400	10.2	7.7	3.8
60	31-26	650	11.0	7.3	5.7	15	17-14	[220]	[7.0]	8.5	2.4	95	35-30	600	9.5	7.5	5.8
61	31-32-27.28	1250	13.0	10.5	5.9	16	17-15	200	11.3	6.0	2.7	96	31-31	[500]	15.1	5.5	4.0
62	32-27	900	11.5	9.0	5.3	17	18-13	470	9.4	6.9	4.7	97	32-34	900	11.8	9.5	6.0
63	32-29	[150]	[4.7]	[6.1]	4.0	18	18-15	500	11.0	7.5	4.1	98	33-33	480	9.5	6.8	4.6
64	34-24	670	11.3	8.0	5.5	19	19-11	[300]	[8.0]	7.0	3.8	99	33-32-33	650	13.3	7.0	4.9
65	35-27	[550]	11.0	8.0	5.5	20	19-14	450	10.0	6.5	4.8	100	34-32	[450]	10.3	7.5	[3.7]
66	35-30	[350]	[6.0]	8.4	4.8	21	19-15	700	11.2	8.0	5.3	101	34-34	450	14.5	6.3	3.7
67	31-32-31.34	4000	7.7	7.4	4.7	22	19-15	600	11.1	9.8	4.3	102	35-40	100	5.0	4.8	2.7
68	31-32-34	600	9.5	7.7	5.5	23	20-13	650	12.3	7.4	5.8	103	36-31	[350]	8.4	7.5	4.1
69	31-32	750	13.1	10.5	6.8	24	20-14	500	11.4	9.4	5.5	104	36-37-21.22	450	14.0	5.1	4.0
70	31-32	770	10.5	8.3	5.6	25	16-16	500	9.4	7.0	5.5	105	36-30	600	9.6	8.0	5.5
71	32-33	450	8.5	6.2	5.3	26	16-17	720	10.8	9.0	5.6	106	36-32	450	9.3	7.7	4.3
72	37-17	480	10.1	6.5	4.0	27	16-17	[400]	11.2	7.8	3.8	107	37-31	550	11.5	8.2	4.3
73	38-19	[180]	8.2	6.5	[2.6]	28	16-19	[320]	9.5	7.5	3.5	108	37-24	450	10.5	8.0	4.0
74	37-21	620	9.8	8.9	4.5	29	16-19-20	550	10.7	8.2	5.2	109	37-35	420	9.3	6.5	4.9
75						30	16-19-20					110	38-15	700	10.8	10.0	4.5
76	37-24	700	10.2	7.6	5.8	31	16-20	600	11.5	7.5	5.2	111	39-18	450	8.5	7.2	5.2
77	38-22	[320]	[6.5]	7.2	5.6	32	16-20	380	9.8	7.0	4.2	112	39-34	200	7.5	5.5	4.2
78	36-27	750	10.6	8.2	6.0	33	16-20	[720]	11.2	9.0	5.6	113	40-36	450	10.3	8.0	4.3
79	36-35	600	11.6	8.0	4.7	34	18-17	98	13.7	9.2	5.6	114	41-11.12	650	10.7	8.8	5.0
80						35	19-16	420	10.0	6.8	5.6	115	41-16	550	12.5	8.5	4.1
81	38-33	800	11.4	8.5	5.9	36	19-16	460	11.8	9.2	5.9	116	41-30	350	8.4	6.8	4.3
82	40-27-28	850	10.7	9.0	5.5	37	19-20	[290]	[9.5]	6.0	3.5	117	41-35	650	12.9	8.6	4.3
83	41-36	1350	11.5	10.0	7.5	38	16-21	500	9.6	8.2	5.0	118	45-26	[450]	14.0	7.0	5.0
84						39	16-21	700	14.5	8.0	4.8	119	47-27	300	11.6	5.1	3.5
85						40	16-22	640	11.0	8.5	5.7	120	49-29	400	8.8	6.7	4.4
86						41	16-29	650	11.5	7.5	5.5	121	50-28	250	8.2	6.6	3.5
87						42	17-21	300	10.0	6.5	4.5	122		640	9.5	8.5	6.3
88						43	17-26	[370]	11.8	6.0	4.1	123		600	9.5	8.5	5.0
89						44	20-24	450	8.3	7.0	5.2	124		250	7.7	7.1	3.5
90	15-17	[500]	[12.3]	4.2	6.0	45	20-25	800	11.3	8.5	6.5	125		350	8.4	7.4	4.3
91						46	20-26	[800]	12.0	8.3	6.0	126		550	10.6	8.0	4.7
92	15-25	1200	16.6	10.5	4.6	47	21-13	950	13.5	9.6	5.3	127		[380]	[9.4]	9.5	3.7
93	15-25	[270]	12.2	[4.5]	4.0	48	22-14	[650]	[12.3]	8.2	5.0	128		500	10.5	8.7	4.8
94	16-15	770	13.5	10.0	4.2	49	23-15	[400]	[8.6]	9.0	3.2	129		370	10.5	7.0	3.5
95	20-13	[250]	[6.0]	7.2	4.0	50	23-15	320	8.2	7.4	4.3	130		350	11.0	7.7	3.4
96						51						131		500	10.0	8.4	4.7
97	19-20	760	13.5	6.0	6.4	52	25-13	680	10.5	8.0	5.7	132		550	9.7	7.7	5.5
98	18-19	450	13.0	6.2	4.3	53	22-18	650	11.9	8.0	4.8	133		350	13.0	6.0	3.6
99						54	22-19	[400]	[10.4]	5.5	5.7	134		450	10.8	6.5	4.7
100	25-17	400	13.5	4.5	3.7	55	24-17	420	11.0	8.0	5.0	135		670	11.0	7.6	6.0
101	27-23	700	12.3	7.5	5.5	56	24-19	360	11.6	6.4	3.1	136		450	9.5	7.4	5.2
102	28-23	[700]	[13.8]	7.5	5.3	57	22-21	380	10.5	5.8	4.7	137		880	11.3	9.3	6.0
103	31-18	800	14.2	7.5	4.9	58	22-27	560	10.1	9.9	5.0	138	34-11	204	8.5	6.0	3.7
104	31-22	[200]	[7.0]	[6.0]	4.9	59	24-26	270	11.2	4.8	3.2	139	16-18	300	7.9	5.8	4.7
105	32-21	650	11.5	6.5	5.6	60	25-27	[570]	15.0	8.5	3.8	140	37-24	450	9.5	5.7	5.7
106	31-26	550	12.8	6.3	4.5	61	25-17	1170	15.7	11.7	4.6	141	37-33	350	8.5	6.4	4.2
107	31-31	[150]	[8.0]	5.3	2.1	62	25-24	[250]	[8.6]	[6.6]	[3.7]						
108	40-21	750	16.8	8.3	4.8	63	27-13	270	7.5	6.2	4.2						
109	40-24	500	13.0	7.0	3.6	64	27-21	300	8.5	6.8	4.4						
110	38-32	500	11.5	6.7	4.1	65	28-17	600	10.3	7.7	5.2						
111	40-32	1300	16.3	8.5	6.6	66	29-18	370	10.0	8.0	3.5						
112	40-35	[250]	[9.0]	6.5	3.4	67	29-22	260	7.5	6.7	4.2						
113	44-22	650	11.5	7.7	4.8	68	26-28	280	10.2	6.6	2.9						
114		600	12.5	7.3	4.2	69	27-28	450	10.7	7.7	4.5						
115		[400]	[11.0]	4.0	4.8	70	28-28	750	12	8.5	5.4						
116		750	12.0	7.5	5.8	71	30-28	200	7.0	7.0	3.2						
117		500	12.4	7.3	3.9	72	27-33	300	7.7	6.4	3.8						
118		[250]	[8.9]	6.0	3.0	73	28-31	350	12.0	5.1	3.8						
119		750	12.5	8.0	4.6	74	30-33	950	15.4	9.7	5.0						
120	15-20	638	10.0	8.3	6.5	75	30-34	650	13.5	7.5	4.5						
121	30-34	1330	14.0	9.5	6.5	76	32-16	460	8.4	6.6	5.6						
122	21-17	[288]	[11.0]	8.0	[3.1]	77	33-19	450	11.9	5.6	4.2						
						78	35-17	[200]	[5.7]	7.0	4.0						
						79	35-20	560	9.8	8.5	6.0						
						80	35-17	850	14.0	10.7	5.8						
						81	31-23	350	12.3	6.2	3.0						
						82	31-23	[280]	[6.5]	8.7	4.3						
						83	31-34	700	12.6	9.5	4.3						
						84	32-33-24.25	470	10.5	7.6	5.0						
						85	34-21	300	10.4	7.5	2.7						
						86	32-26	350	8.0	6.5	4.1						
						87	32-30	300	9.2	6.4	4.6						
						88	33-26	680	11.3	8.5	5.1						
						89	33-28	220	8.0	6.5	5.0						
						90	33-28	[300]	9.5	6.5	3.5						

石	出土区	重量	最大長	最大厚
1	13-21	714	12.4	8.2
2	13-23	430	10.0	6.5
3	14-21	860	12.4	9.3
4	14-21	450	9.1	6.9
5	14-23	650	11.5	8.0
6	15-16	400	11.0	6.7
7	15-18	650	11.7	7.5
8	15-23	300	12.0	6.2
9	16-14	150	8.8	4.9
10	16-14	550	10.2	7.8

No	名称	出土区	重量	最大長	最大幅	最大厚
1 玉網外	玉網外					
1 素玉	35-35	25				
2 石礫	33-34	6				
3 スクレー	34-32	76				
4 バー						
4 スクレー	46-49	103				
5 バー						
5 剥片類	33-18					
5 剥片類	20-18					
7 剥片類	拂土中					
8 剥片類	33.34-27.28					
9 剥片類	35-16					
10 剥片類	35-21					
11 剥片類	28-23					
12 剥片類	34-19					
13 剥片類	37-24.25					
14 剥片類	16-18					
15 剥片類	16-18					
16 剥片類	28-33					
17 剥片類	20-14					
1 摻石	16-13	523	14.0	8.0	3.8	
2 摻石	16-20	828	16.2	7.8	5.0	
3 摻石	17-19	[724]	13.4	7.5	5.5	
4 摻石	20.21-11.12	[361]	[14.0]	6.0	3.5	
5 摻石	25-19	[599]	[10.8]	7.4	5.4	
6 摻石	28-27	[454]	[9.2]	7.0	5.0	
7 摻石	32-18	885	18.5	6.5	4.8	
8 摻石	31-32	991	16.2	7.5	5.9	
9 摻石	33.34-27.28	1080	17.4	7.3	6.2	
10 摻石	42-35	882	15.3	7.2	5.0	
11 摻石	拂土中	630	17.3	7.5	4.1	
12 摻石	15-17	720	14.0	7.0	5.0	
13 摻石	16-19	1400	16.6	8.3	7.7	
14 摻石	23.24-13.14	1000	16.0	8.0	5.3	
1 欠番						
2 離器	20-11	1011	15.4	7.7	6.5	
3 欠番						
4 離器	35-33	1430	14.9	13.4	5.0	
5 欠番						
6 欠番						
1 たたき石	13-19	923	16.0	8.0	4.8	
2 たたき石	16-17	401	9.0	7.0	4.0	
3 たたき石	28-27	1171	14.2	8.0	5.8	
4 欠番						
5 たたき石	34-12	437	8.2	6.9	4.8	
6 欠番						
7 たたき石	38-20	670	10.5	6.5	6.3	
8 欠番						
9 欠番						
10 欠番						
11 たたき石	22-21	1670	15.5	13.5	6.0	
12 たたき石	23.24-13.14	[600]	12.7	6.6	5.5	
13 たたき石	42-19	[427]	[16.0]	[6.5]	[3.1]	
14 たたき石	46-25	369	14.0	4.5	3.6	
1 石皿	11-22	1029	14.7	10.0	7.0	
2 石皿	15-22	766	13.5	11.0	4.3	
3 石皿	16-17	333	8.4	7.2	4.7	
4 石皿	16-18	814	11.5	10.2	5.2	
5 石皿	19-23	336	9.8	7.0	4.3	
6 石皿	20.21-15.16	1576	15.0	11.0	7.4	
7 石皿	20-19	785	13.0	13.0	4.2	
8 石皿	20-26	1634	13.8	12.0	6.9	
9 石皿	23-16.27	1181	14.0	12.0	5.3	
10 石皿	23-18	736	14.5	9.5	6.0	
11 石皿	23-18	371	8.9	7.2	4.7	
12 石皿	30-33	1320	14.0	15.0	7.3	
13 石皿	30-23	283	10.5	5.7	4.3	
14 石皿	拂土中	485	11.5	8.2	4.3	
15 石皿	31-28	23600	43.0	31.0	12.8	
16 石皿	14-22	[150]	[9.3]	[6.0]	[2.3]	
17 石皿	49-10 表土	[298]	[14.0]	9.0	3.5	
1 石棒	18-18	9550	31.5	18.0	16.0	
2 石棒	26-13	634	11.5	7.5	6.0	
3 石棒	34-33	1267	11.5	9.6	8.0	

4 石棒	35-33	4700	19.0	13.0	12.8
1 その他	19-13	[274]	[11.0]	[7.6]	[3.4]
2 その他	20-11	[1383]	[11.5]	9.0	8.2
3 その他	20-23	[2213]	[16.2]	12.4	8.2
4 大番					
5 その他	24-21	[227]	[10.0]	7.0	2.1
6 その他	25-17	[44]	[7.5]	[4.0]	2.0
7 その他	25-18	[121]	[7.2]	5.5	2.2
8 その他	25-23	545	17.3	7.2	4.8
9 その他	30-20	[430]	[12.4]	7.3	3.2
10 その他	30-29	[517]	[7.8]	8.2	6.1
11 その他	30-31	[161]	[11.5]	[5.0]	[1.9]
12 大番					
13 その他	31-33	163	12.6	4.5	3.6
14 大番					
15 その他	32-28	[132]	[6.8]	5.8	2.0
16 その他	33-26	[131]	[8.6]	[5.3]	[1.5]
17 その他	33-33	[269]	[12.2]	8.7	2.5
18 その他	34-27	1207	18.5	9.5	8.0
19 その他	36-30	87	7.5	4.2	2.5
20 その他	41-18	[244]	[7.8]	6.7	3.5
21 大番					
22 その他	42-34	[84]	[8.0]	[4.5]	[1.9]
23 その他	43-28	[306]	[7.8]	[9.8]	[4.0]
24 その他	43-28	[171]	[6.7]	[9.0]	[2.5]
25 その他	45-34	[91]	[6.7]	4.7	2.7
26 その他	45-34	[119]	[6.8]	6.3	2.1
27 その他	45-11	55	5.0	4.3	2.3
28 大番					
29 その他	46-31 表土	[382]	[10.5]	[7.3]	[4.3]
30 大番					
31 その他	拂土中	92	11.0	3.1	1.8
32 その他	拂土中	[58]	[4.2]	4.5	2.0
33 その他	拂土中	44	5.3	3.5	1.7
1 石綱	晚晴地点	94	6.5	5.0	2.3
2 石綱	晚晴地点	20	3.6	2.6	1.5
3 打製石斧	表土	154	12.0	5.7	1.4
4 打製石斧	拂土中	26	4.2	2.5	1.7
5 打製石斧	拂土中	13	5.0	4.2	0.5
6 円石	4-10	204	10.2	4.5	2.8
7 打製石斧	4-10	[93]	[7.0]	4.3	2.0
1 石綱	(-1)-10-18-23	[42]	[4.5]	4.3	1.3
2 石綱	(-1)-(11)-18-23	57	6.0	4.2	1.6
3 石綱	(-1)-10-18-23	238	9.5	5.5	2.7
4 石綱	(-1)-10-18-23	60	7.6	4.5	1.6
5 石綱	(-8)-5	41	6.1	3.2	1.3
6 石綱	(-8)-7	[125]	7.2	5.2	2.2
7 石綱	(-8)-7	[30]	[4.6]	[4.7]	[1.6]
8 石綱	(-10)-3	[54]	[4.1]	4.0	2.3
9 石綱	(-10)-3	[26]	[4.5]	[4.0]	[1.0]
10 石綱	(-13)-8	[68]	[4.7]	4.0	2.2
11 石綱	(-15)-5	73	6.1	3.5	2.1
12 石綱	(-19)-(-20)-8	46	4.1	3.5	2.2
13 磨製石斧	(-1)-(-10)-18-23	[153]	[10.1]	[5.2]	2.3
14 磨製石斧	(-1)-(-10)-18-23	151	8.5	5.0	1.9
15 磨製石斧	(-1)-(-10)-18-23	[111]	[6.0]	[6.0]	2.3
16 磨製石斧	(-15)-	[19]	4.9	2.2	0.7
17 打製石斧	(-10)-23	408	13.9	6.5	2.7
18 打製石斧	(-10)-3	457	14.9	7.6	3.6
19 打製石斧	(-11)-8	[217]	[11.5]	6.5	2.5
20 打製石斧	(-16)-8	[239]	[10.5]	7.2	2.9
21 打製石斧	(-19)-(-20)-8	[124]	[7.8]	5.5	2.5
22 打製石斧	(-14)-3	664	10.1	9.0	5.8
23 打製石斧	(-12)-3	487	14.4	6.0	3.1
24 円石	(-10)-23	374	10.0	5.2	4.4
25 円石	(-13)-8	246	5.5	5.0	4.7
1 円石	46-(-30)	[455]	[10.4]	7.0	3.8
2 円石	45-(-39)	790	15.6	7.0	4.8
3 石綱	45-(-39)	[47]	[4.0]	[5.0]	[2.1]
4 磨製石斧	41-(-40)	[50]	6.0	3.0	2.0
5 溝片	45-(-31)	[7]	[3.2]	[3.2]	[0.7]
6 ?	41-(-40)	[402]	[12.4]	[11.4]	[3.6]
1 打製石斧	(-5)-(-10)-	304	9.0	6.5	3.6
	(-5)-(-10)				

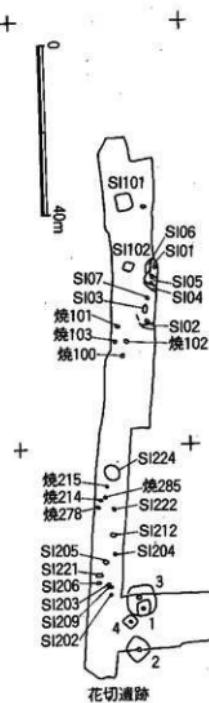
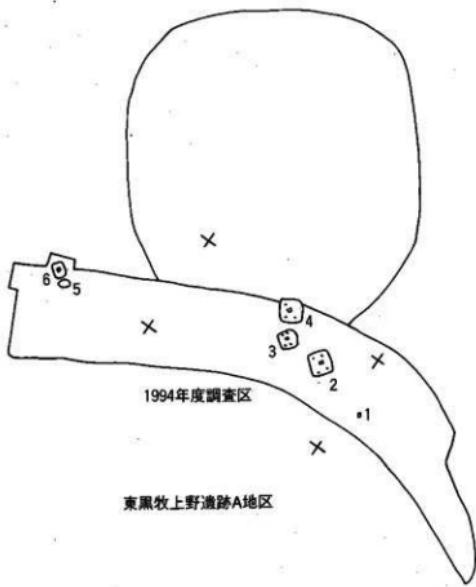
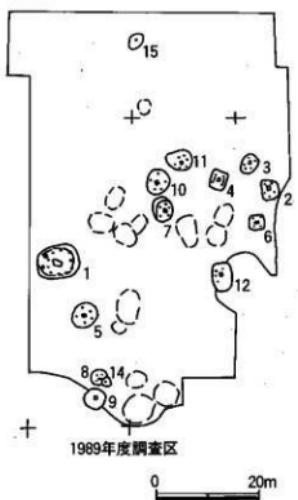
1	土器器	穴 -01
2	土器器	49-32 泥土
3	土器器	41-34
4	土器器	16-18
5	土器器	16-19
6	土器器	拂土中
7	土器器	38-27
8	須恵器	19-21
9	須恵器	14-21
10	土器器	38-20
11	土器器	32-17
12	土器器	36-16
13	土器器	49-20 泥土
14	土器器	42-35
15	土器器	40-34
16	土器器	27-16
17	土器器	38-35
18	土器器	40-34,35
19	土器器	41-16
20	土器器	28-12
21	土器器	33-25
22	土器器	39-27
23	土器器	17-21
24	土器器	40-34
25	土器器	36-32
1	土器	38-32
2	土器	36,37-31,32
3	土器	拂土中
4	土器	38-32
5	土器	拂土中
6	土器	拂土中
7	土器	25-25
8	土器	37-33
9	土器	36-30
10	土器	35-32
11	土器	31-20
12	土器	40-14
13	土器	31-32
14	土器	37-32
15	土器	43-33
16	土器	37,38-16,17
17	土器	28-28
18	土器	35-31
19	土器	34-27
20	土器	37-33
21	土器	拂土中
22	土器	住-03 C
23	土器	住-03
24	土器	上器
25	土器	37-31
26	土器	40-35
27	土器	37-35
28	土器	36-31
29	土器	住-02 D
30	土器	拂土中
31	土器	37-33
32	土器	36,37-26
33	土器	住-02 D
34	土器	住-02 B
35	土器	26-21 あげ土
36	土器	27-33
37	土器	34-33
38	土器	40-22
39	土器	36-32
40	土器	34-27
41	土器	30-31
42	土器	拂土中
43	土器	37-28
44	土器	拂土中
45	土器	35-30
46	土器	34-34
47	土器	34-26
48	土器	32-33,34
49	土器	31-30
50	土器	住-03 ベルト北
51	土器	拂土中
52	土器	住-07 B
53	土器	住-02 C
54	土器	拂土中
55	土器	38-35

88

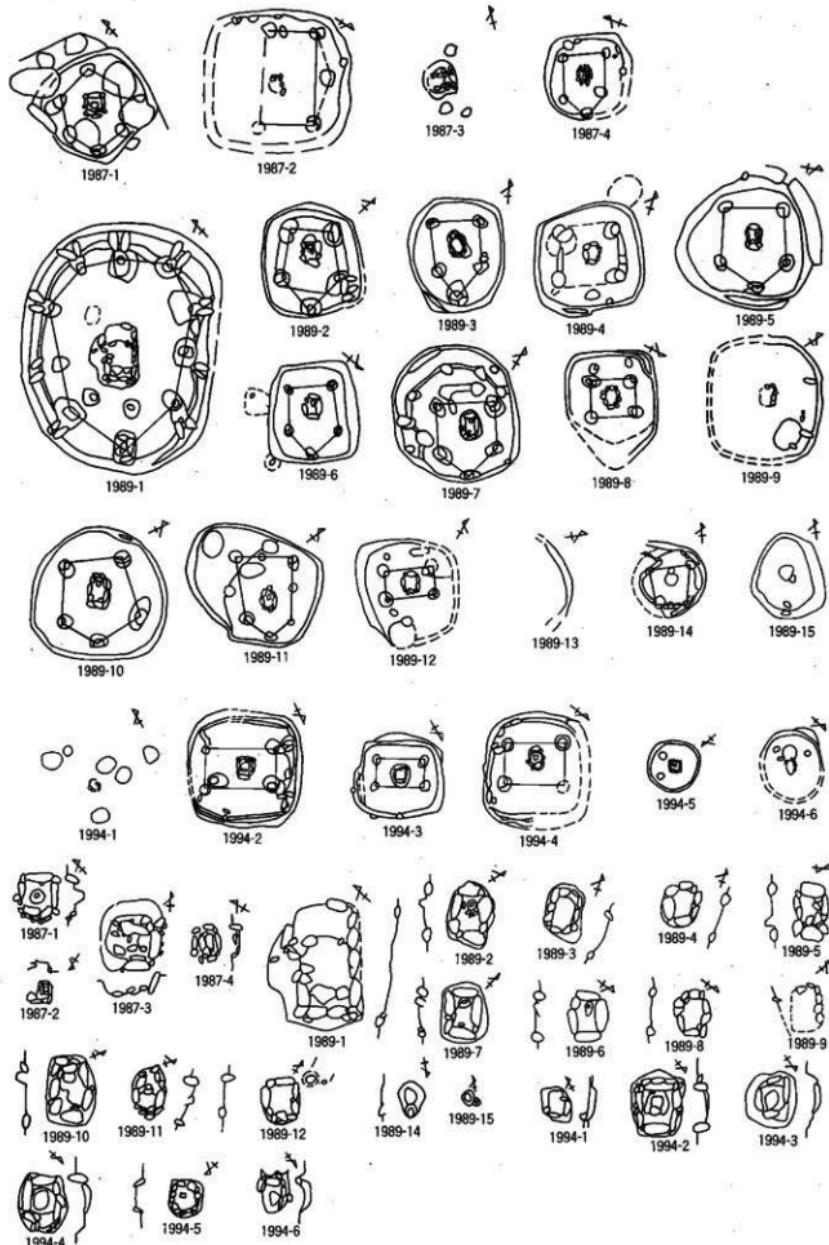
56	土器	16-30
57	土器	35-15
58	土器	30-28
59	土器	25-27
60	土器	37,38-34
61	土器	36-30
62	土器	30-11
63	土器	40-25
64	土器	35-25
1	器台	住-07D 黄褐色土
2	器台	住-07D
3	器台	住-06A 黄褐色土
4	器台	住-06B 黄褐色土
5	器台	住-05D 黄褐色土
6	器台	住-01 国-No1
7	器台	住-01B 黄褐色土
8	器台	住-01A 黄褐色土
9	器台	住-03B
10	器台	住-09 フク土
11	器台	住-08B
12	器台	住-10C
13	器台	住-05A
14	器台	住-13 フク土
15	器台	41-25
16	器台	37-24,25
17	器台	26-25
18	器台	30-21
19	器台	20-16
20	器台	23-13
21	器台	19-16
22	器台	16-19
23	器台	18-17
24	器台	34-26
25	器台	22-19
26	器台	23-13
27	器台	19-14
28	器台	16-18
29	器台	拂土中
30	器台	36-28
31	器台	34-25
32	器台	16-14
33	器台	住-05A 黄褐色土
1	その他	17-13
2	その他	23-19
3	その他	40,41-17
4	その他	17-17
5	その他	20-20
6	その他	住-06C
1	土偶	31-16
2	土偶	28-31
3	土偶	36-22
4	土偶	23-17
5	土偶	17-20
6	土偶	37-24 住-11
7	土偶	15-22
8	土偶	34-17
9	土偶	住-07D 黄褐色土
10	土偶	住-05B
11	土偶	住-04B
12	土偶	住-01D
13	土偶	住-01
14	土偶	住-02C
15	土偶	住-01B
16	土偶	住-01D(?)
17	土偶	住-01
18	土偶	住-10 ベルト東
19	土偶	住-01A 黄褐色土
20	土偶	住-01C 黑色土
21	土偶	住-01
22	土偶	セクション東
23	土偶	セクション東
24	土偶	住-07B
25	土偶	住-08C
26	土偶	15-5



第19図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区遺物実測図 1~15:土器・16~19:石器(表面採集:縮尺1/3)



第20図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区・花切・花切西遺跡住居跡配置図



第21図 参考図 東黒牧上野遺跡A地区・花切遺跡の住居跡・炉跡集成図
(1987-1:花切遺跡1987年度1号住居) (1987・1994:東黒牧上野遺跡A地区)

1号住居

1号住居炉跡

1号住居出土遺物

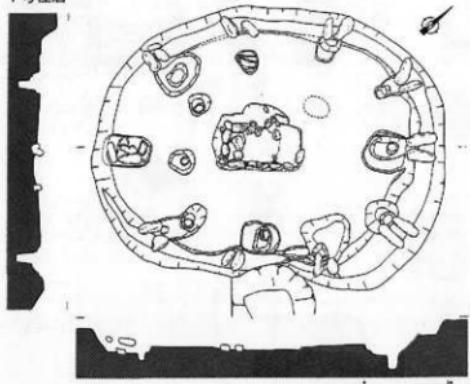


第22図 参考図 大山町花切遺跡 住居跡・出土遺物(1)

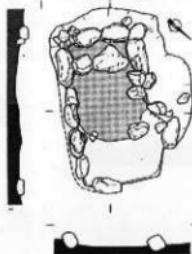


第23図 参考図 大山町花切遺跡 住居跡・出土遺物(2)

1号住居



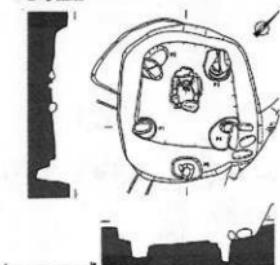
1号住居炉跡



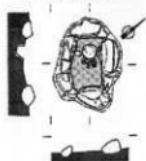
1号住居出土遺物



2号住居



2号住居炉跡

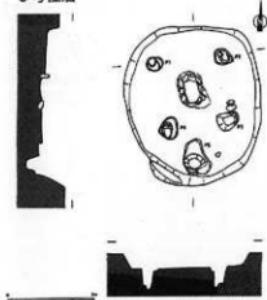


2号住居出土遺物

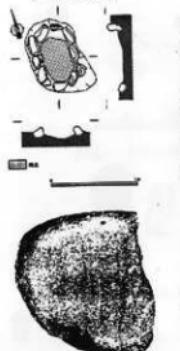


第24図 参考図 大山町東黒牧上野遺跡A地区89年度調査区 住居跡・出土遺物(1)

3号住居



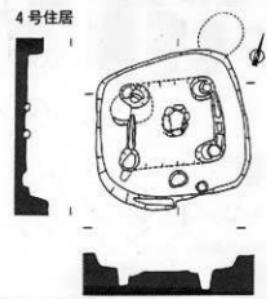
3号住居炉跡



3号住居出土遺物



4号住居



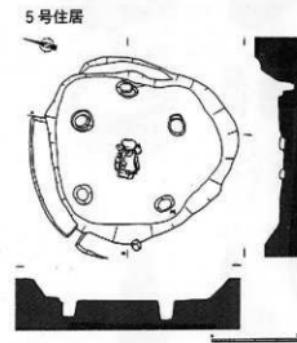
4号住居炉跡



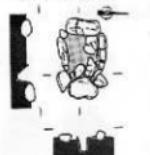
4号住居出土遺物



5号住居



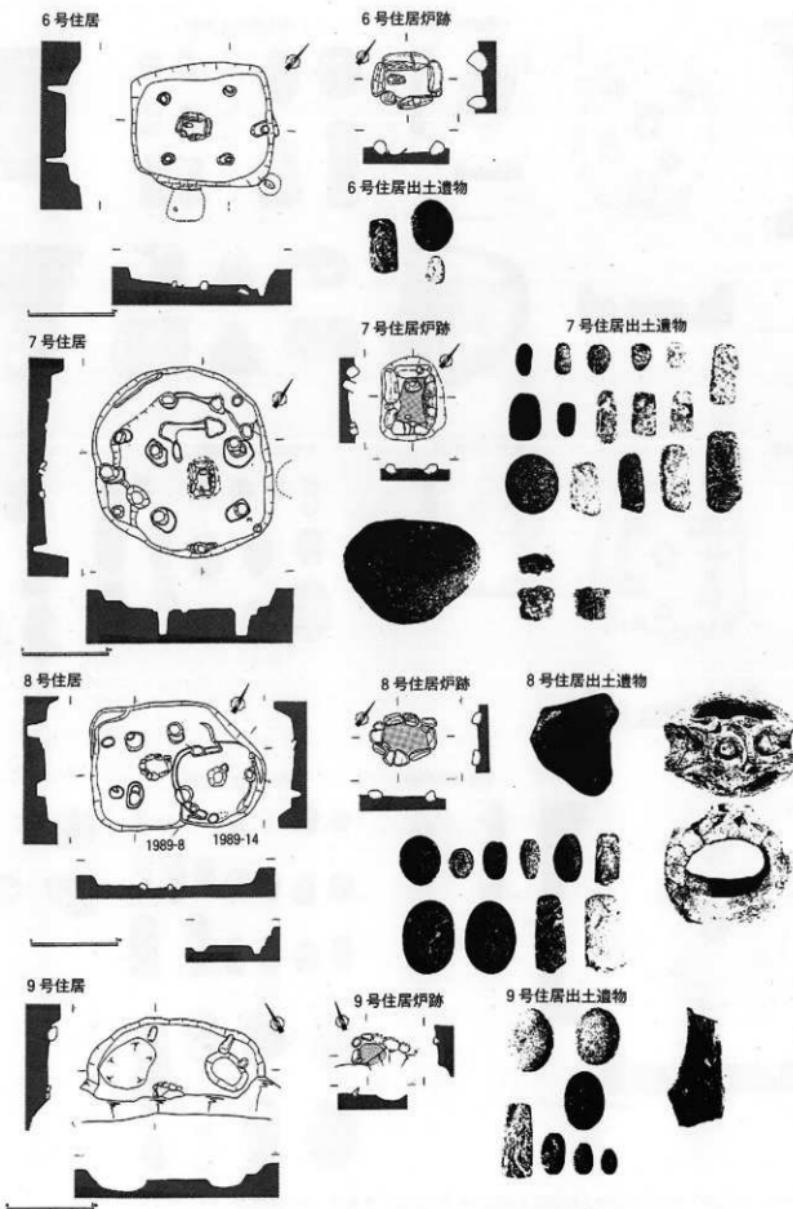
5号住居炉跡



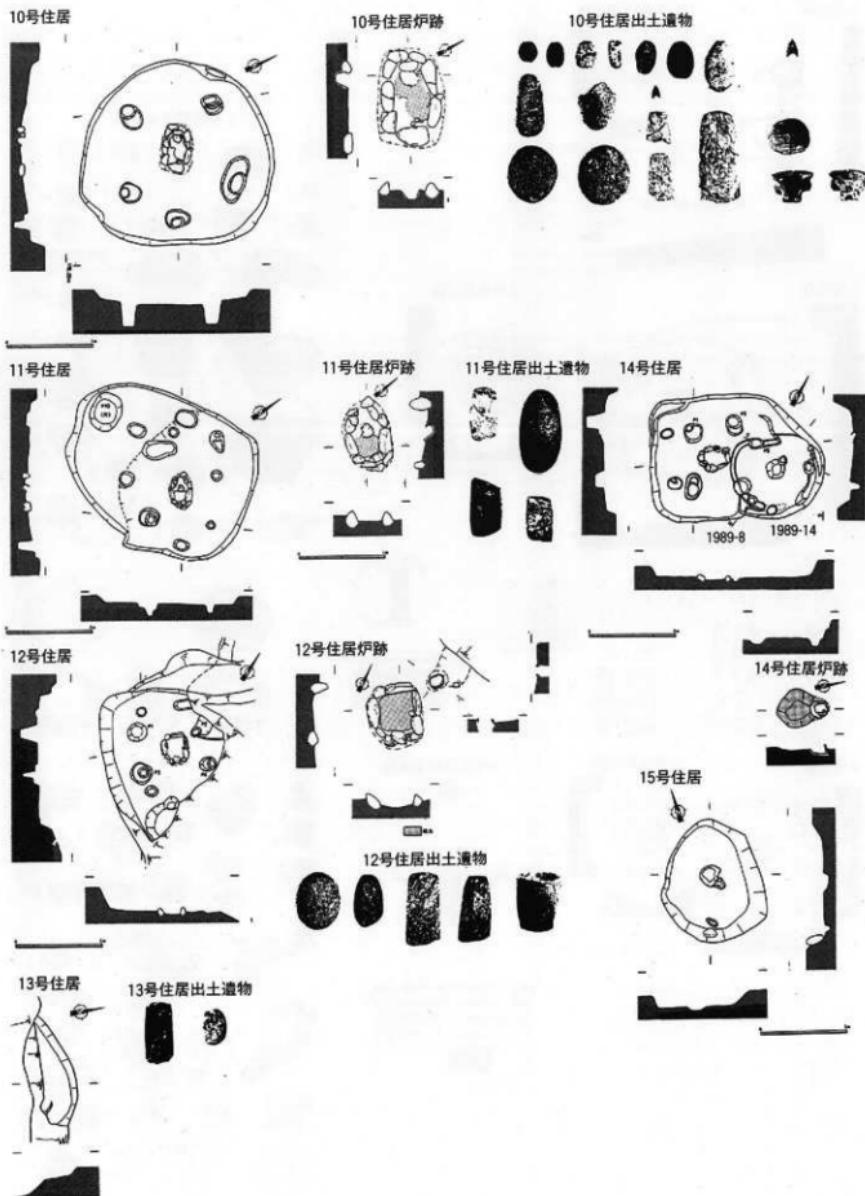
5号住居出土遺物



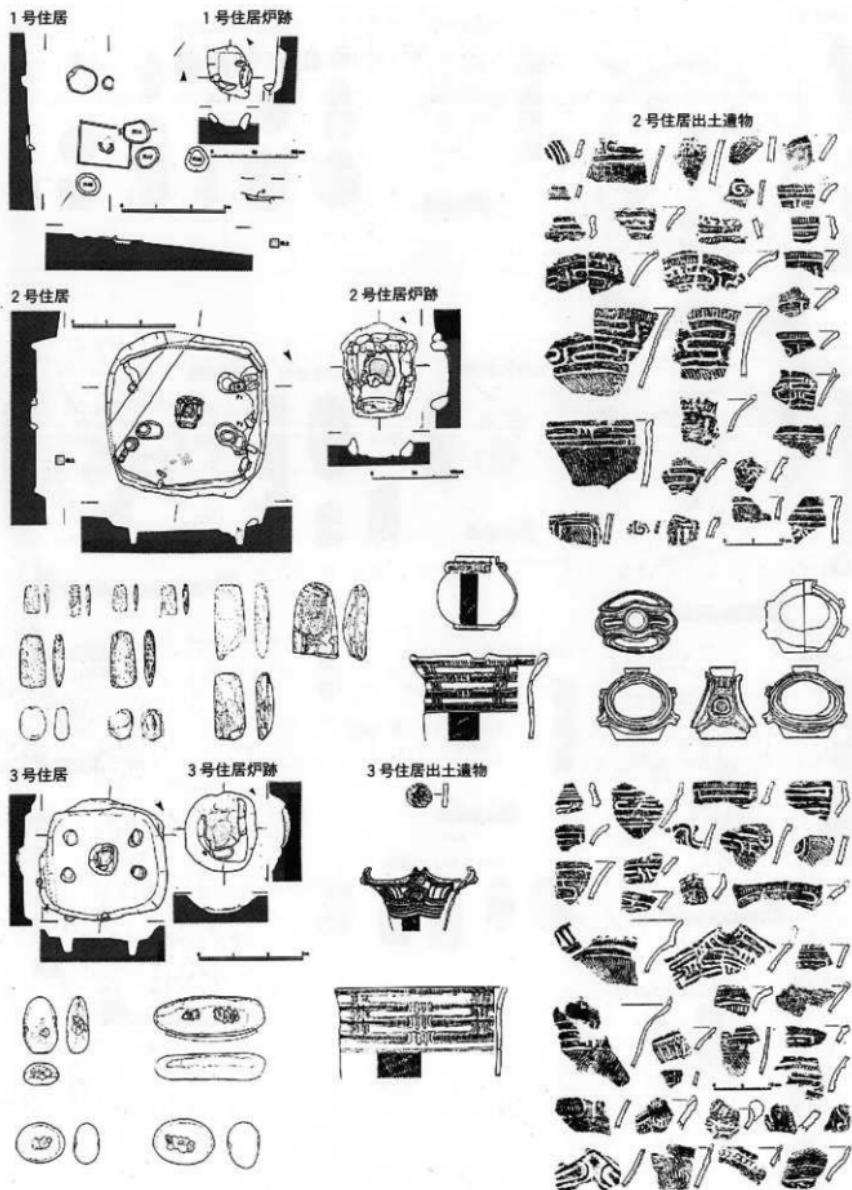
第25図 参考図 大山町東黒牧上野遺跡A地区89年度調査区 住居跡・出土遺物(2)



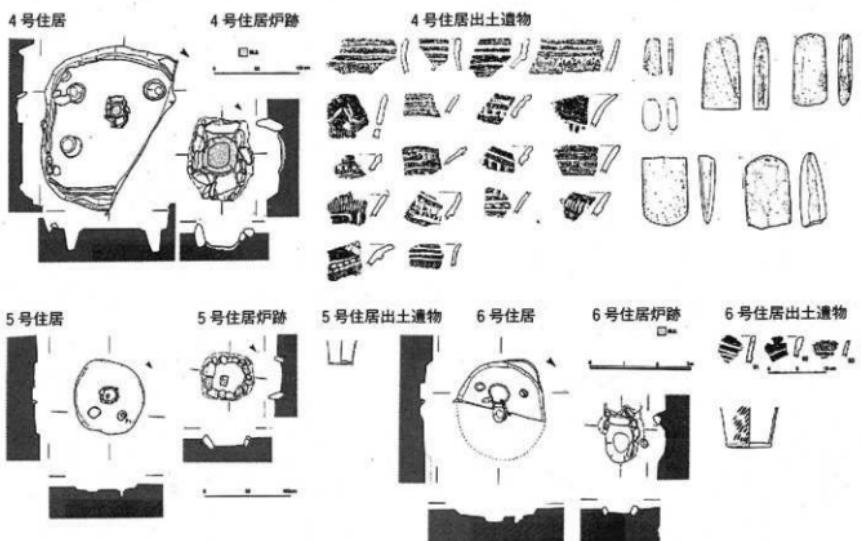
第26図 参考図 大山町東黒牧上野遺跡A地区89年度調査区 住居跡・出土遺物(3)



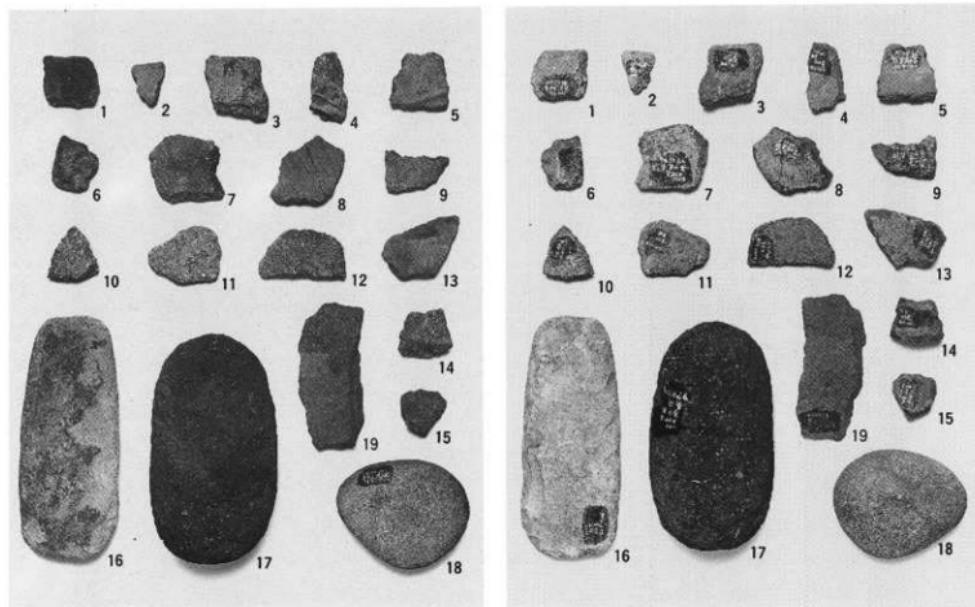
第27図 参考図 大山町東黒牧上野遺跡A地区89年度調査区 住居跡・出土遺物(4)



第28図 参考図 大山町東黒牧上野遺跡A地区94年度調査区 住居跡・出土遺物(1)



第29図 参考図 大山町東黒牧上野遺跡A地区94年度調査区 住居跡・出土遺物(2)





写真図版第6 参考写真 東黒牧上野遺跡A地区（西より）

報告書抄録

ふりがな	だい2じちょうさへいせい10ねんど・だい3じちょうさへいせい11ねんど がっこうほうじんとやまこくさいがくえんとやまこくさいだいがくちいきがくぶぞうせつけんせつこうじにかかる まいぞうぶんかざいはつくちょうさ とやまけんおおやままちひがしくろまきうわのいせきGちくはつくつちょうさかいよう							
書名	第2次調査平成10年度・第3次調査平成11年度 学校法人 富山国際学園 富山国際大学地域学部増設建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査 富山県大山町東黒牧上野遺跡G地区発掘調査概要							
編集・著者名	小松博幸・横本正春・戸熊暢宏							
編集機関	大山町教育委員会							
所在地	〒930-1392 富山県上新川郡大山町上滝523							
発行機関	大山町教育委員会							
所在地	〒930-1392 富山県上新川郡大山町上滝523							
発行年月日	西暦2000年3月31日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東經	調査期間	調査面積	調査原因	
DML140000000000 東黒牧上野 G地区	富山県上新川郡 大山町東黒牧字上野	市町村 302	遺跡番号 016	36度 35分 47秒	137度 16分 43秒	19980706 ~19980804 19990426 ~1999060	500m ² 460m ²	大学校舎増築工事に係る事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
東黒牧上野 G地区	散布地	縄文時代	穴	绳文土器 慶製石斧 打製石斧 石皿 土師器	昭和62(1987)年度の試掘調査で検出 している、古墳時代の竪穴住居跡は、 学校法人富山国際学園と町の協議に より保在している。			
		弥生時代 末 古墳時代 前期						

大山町埋蔵文化財調査報告第10集

第2次調査平成10年度・第3次調査平成11年度

学校法人 富山国際学園 富山国際大学地域学部

増設建設工事に係る埋蔵文化財発掘調査

富山県大山町東黒牧上野遺跡G地区発掘調査概要

発行日 平成12年3月31日

編集 大山町教育委員会

発行 大山町教育委員会

〒930-1392 富山県上新川郡大山町上滝523

Tel (076)483-2594

Fax (076)483-3081

印刷 有限会社 オダケ印刷社

